

平成27年度

幼児（3・4・5歳児）をもつ  
保護者の子育てに関する調査

報 告 書

福岡県立社会教育総合センター

## はじめに

教育の原点である家庭教育は、「生きる力」を身に付けていく基礎をつくる重要なものです。それゆえに適切な家庭教育を受けることは、これからの未来を担うすべての子どもにとって重要なことです。

しかし近年、家庭環境や地域環境が変化する中、子育てについての不安や孤立を感じ、社会性や自立心等の子どもの育ちや基本的な生活習慣などに課題を抱える家庭は多く、家庭教育が困難な社会となっています。

そのような中、平成18年12月の教育基本法改正では、新たに「家庭教育」に関する条文が新設され、家庭教育についての保護者の責任や役割、行政の支援などが規定されました。また、平成20年改正の社会教育法では、家庭教育に関する社会教育の立場と関係者等との連携・協力の促進に努めることが明記されました。

文部科学省において開催した家庭教育支援の推進に関する検討委員会では、平成24年3月に報告書を取りまとめ、今後は、家庭と地域や社会とのつながりをつくるとともに、教育分野と保健福祉分野の取組の連携・協力により、親子の育ちを一層支援していくことが必要とされています。

当センターでは、福岡県における家庭教育の実態や課題を明らかにするため、昭和55年度から幼児・小学生・中学生をもつ保護者を対象に「養育態度・意識の実態調査」を実施してきました。平成27・28年度は、県内の13幼稚園、21保育所（園）の3・4・5歳児の男性保護者、女性保護者の養育態度・意識の実態について調査し、過去の調査と経年比較しながらその分析結果をまとめました。

子どもをもつ保護者が、今何を課題とし、どのような支援を必要としているのかを明らかにするためには、子育て中の保護者の現状を十分把握する必要があります。本報告書が家庭教育に関する課題解決に向け、保護者のみならず家庭教育を支援する多くの方々のお役に立つならば幸いです。なお、これまでの調査報告書は県立社会教育総合センターが管理するホームページ「ふくおか社会教育ネットワーク」の「福岡県内データ集」で検索できますので、是非、御活用ください。

おわりに、本調査を実施するに当たり、御尽力いただきました福岡教育大学の井上豊久教授、調査にご協力いただきました各保育所（園）・幼稚園の保護者・職員の皆様、関係教育委員会の方々に心から御礼申し上げます。

平成29年1月

福岡県立社会教育総合センター  
所 長 中 菌 宏



# 目次

## I 幼児（3・4・5歳児）をもつ保護者の子育てに関する調査のまとめ

第1章	調査の概要	
1	調査の目的	1
2	調査の方法	1
3	分析の基本的視点	3
第2章	保護者の養育態度	
1	基本的生活習慣	4
2	言葉のしつけと手伝い	9
3	「保護者の養育態度」に関するまとめ	11
第3章	保護者と子どもの交流	
1	子どもの認知	13
2	子どもの受容	15
3	「保護者と子どもの交流」に関するまとめ	17
第4章	保護者の養育意識	
1	養育の目標と家庭外の教育	19
2	自己評価	21
3	養育の悩みや課題	22
4	「保護者の養育意識」に関するまとめ	29
第5章	変遷と総合分析・提案	
1	20年間の幼児に対する家庭教育の変遷	31
2	総合的分析と提案	36

## II 参考資料

実施要項  
配付アンケート  
集計表  
調査協力保育所（園）・幼稚園



**I 幼児（3・4・5歳児）をもつ  
保護者の子育てに関する調査のまとめ**

# 第1章 調査の概要

## 1 調査の目的

子どもに対する保護者の養育態度・意識は子どもの発達に大きく関係しており、その実態を把握することは、今後の家庭教育支援・子育て支援の在り方や方向性を検討する上で大変重要である。

そのために、福岡県では昭和55年から5年ごとに、幼児・小学生・中学生をもつ保護者を対象に「養育態度・意識の実態調査」を実施してきた。

本年度は3・4・5歳児をもつ保護者の養育態度・意識についての調査を行い、次の点を検討した。

- 保護者の養育態度や意識の実態について明らかにする。
- 平成7年度、12年度、17年度、22年度に実施した調査と比較し、その経年変化をたどること、時代とともに変化する保護者の養育態度や意識を明らかにする。
- 今後の福岡県の幼児期における家庭教育の充実・振興の基礎資料に資する。

## 2 調査の方法

### (1) 調査の対象

本調査は、福岡県下の34の保育所(園)・幼稚園の3・4・5歳児の保護者を対象に実施した。なお、調査対象保育所(園)・幼稚園に関しては基本的に過去4回の調査園と同一の園に依頼した(なお、経年の中で1幼稚園は他園と統合し、1保育所(園)については閉所した)。各園の回収できたものから記入者が3・4・5歳児の男性保護者1,316名、女性保護者1,696名を有効回答とした。有効回答の内訳を子どもの年齢・性別で分類すると、表1・2となり、また、幼稚園・保育所(園)別、保護者の年代別で分類すると表3・4のとおりである。

### (2) 調査の方法について

本調査は、質問総数29項目からなる調査票「幼児(3・4・5歳児)をもつ保護者の子育てに関するアンケート」【幼児(3・4・5歳児)をもつ保護者の養育態度・意識の実態に関する調査】により無記名で行った。調査票は、男性保護者・女性保護者ともに同一の用紙、質問の構成と内容も同一のものとした。

調査票は、大きく「保護者の養育態度」「保護者と子どもの交流」「保護者の養育の意識」の3領域で構成し、「保護者の養育態度」の領域では、主に基本的な生活習慣やしつけについて、次に「保護者と子どもの交流」では、子どもの認知や受容について質問している。また、「保護者の養育意識」の領域では、子どもを養育するにあたっての目標やしつけ等に対する自己評価、さらには悩みやその解決方法と今後期待する支援方法について問いかけた。

質問項目の構成については、表5に示している。

### (3) 調査の実施方法と時期

調査の実施にあたっては、調査に協力いただいた保育所(園)・幼稚園に調査票を直接持参し、学級担任をとおして各家庭に配付し、記入をお願いした。

調査を実施した時期は、平成28年1月である。調査に協力いただいた保育所(園)・幼稚園の名称は本報告書の末尾に記載している。

表1 子どもの年齢・性別による男性保護者数（単位：人）

	3歳	4歳	5歳	合計
男子	224	292	221	737
女子	157	208	202	567
男女不詳	6	4	2	12
合計	387	504	425	1,316

表2 子どもの年齢・性別による女性保護者数（単位：人）

	3歳	4歳	5歳	合計
男子	243	316	246	805
女子	260	313	310	883
男女不詳	2	5	1	8
合計	505	634	557	1,696

表3 子どもの幼稚園・保育所（園）・年齢別による保護者数（単位：人）

		3歳	4歳	5歳	無回答	小計
男性保護者	幼稚園	118	233	202	0	553
	保育所（園）	269	272	223	0	763
	小計	387	504	425	0	1,316
女性保護者	幼稚園	147	266	241	0	654
	保育所（園）	358	368	316	0	1,042
	小計	505	634	557	0	1,696
合計		892	1,138	982	0	3,012

表4 保護者の年齢別人数（単位：人）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	合計
男性保護者	7	79	741	444	28	5	12	1,316
女性保護者	1	179	1,073	423	4	3	7	1,696
合計	8	258	1,820	867	32	8	19	3,012

表5 調査票の構成

保護者の養育態度	保護者と子どもの交流	保護者の養育意識
<b>基本的な生活習慣</b> 1. 朝食 2. 就寝時刻 3. 起床の仕方 4. 洗顔・歯磨き 5. 食事時のテレビの視聴 6. テレビの視聴時間 7. ゲームで遊ぶ時間	<b>子どもの認知</b> 13. ほめる 14. しかる 15. 男女の区別	<b>養育の目標と家庭外の教育</b> 9. 体験活動への考え方 20. 育てる上での重点 21. 習い事
	<b>子どもの受容</b>	<b>自己評価</b> 22. しつけの自信 23. しつけの甘さ
<b>挨拶・返事・言葉のしつけと手伝い</b>	16. 対話 17. スキンシップ 18. 読み聞かせ 19. 携帯型端末の使用	<b>養育の悩みや課題</b> 8. 子どもの登園の悩み 24. 子育ての楽しさ 25. 子育ての孤立感 26. 子育てのイライラ感 27. 子育ての不安・悩み 28. 悩みの解決法 29. 望んでいる子育て支援
10. あいさつ 11. 言葉の乱れ 12. 手伝い		

※1～29の番号は、調査票の質問項目番号

※質問9、19は、今回追加質問項目

### 3 分析の基本的視点

調査結果の分析は、調査票の構成に沿って行った。質問ごとの特徴や傾向を把握するために、結果の集計は男性保護者・女性保護者別に行い、パラメーターとして保育所（園）・幼稚園別、年齢別、男女別に分析し、それぞれについて説明した。

さらに、平成7年度、12年度、17年度、22年度に実施された調査と比較検討し、20年間の保護者の養育態度・意識の変化のありようについて分析・考察を行った。

分析にあたり、○は平成27年度の調査から分かったこと、◎は、平成7年度、12年度、17年度、22年度調査の経年比較から分かったことを表している。

なお、グラフの数値については、過去のデータも含め小数点以下を四捨五入しているため、1%程度の誤差が生じている。また、質問ごとのグラフについては、無回答の度数は省略していることを御了承願いたい。保護者の表記については、前回調査（H22年度）までは「父親・母親」としていたが、今回の調査から「男性保護者・女性保護者」としている。

## 第2章 保護者の養育態度

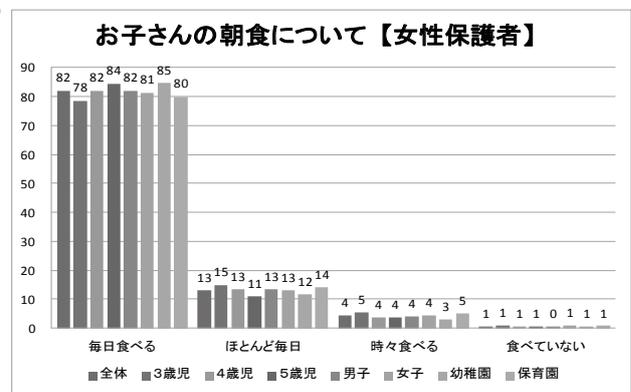
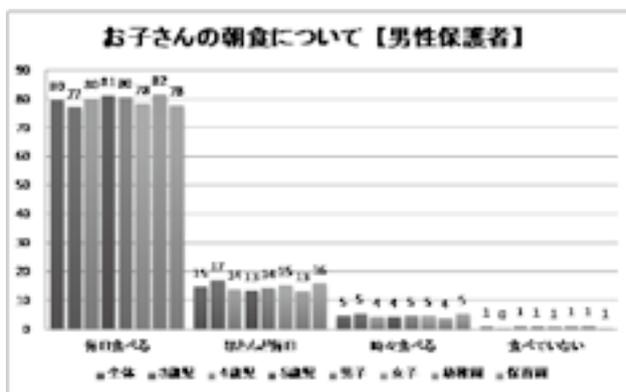
### 1 基本的な生活習慣

子どものよりよい成長・発達にとって、幼児期における基本的な生活習慣づくりは最も重要な課題の一つである。子の教育について第一義的責任を有する保護者がその重要性を理解し、率先して生活のリズムをつくっていくことが求められる。この基本的な生活習慣を確立するための保護者の関わりを「朝食をとる頻度」「就寝時間」「起床の仕方」「洗顔・歯磨き指導」「食事中のテレビの視聴」「テレビの視聴時間」「ゲーム（テレビ、パソコン、ネット、携帯型等）で遊ぶ時間」から考えてみる。

#### (1) 朝食をとる頻度について

##### あなたのお子さんは、朝食を食べていますか

- 「毎日食べる」と答えた割合が最も高く、男性保護者80%、女性保護者82%と高い割合になっている。「毎日食べる」「ほとんど毎日食べる」を合わせた割合は、男性保護者、女性保護者ともに95%と、平成22年と比較すると男性保護者で+1ポイント、女性保護者で-1ポイントとなっており、高い割合を維持している。
- 子どもの年齢が上がるほど、「朝食をとる」頻度は高くなり、保育園よりも幼稚園の割合が高くなっている。要因として、子どもの食欲不振、保育所（園）に比べて幼稚園の始まりが一般に遅いというだけでなく、保育所（園）の女性保護者は仕事に出るため朝は時間が取りにくいということが考えられる。
- 朝食をきちんととることは、子どもの身体の発達にとって重要であるが、食欲は、生活リズムや遊びに大きく左右されるということにも留意が必要である。朝食によって活発に活動が出来るのである。



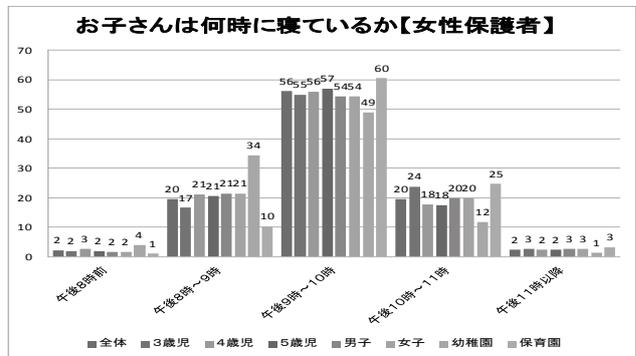
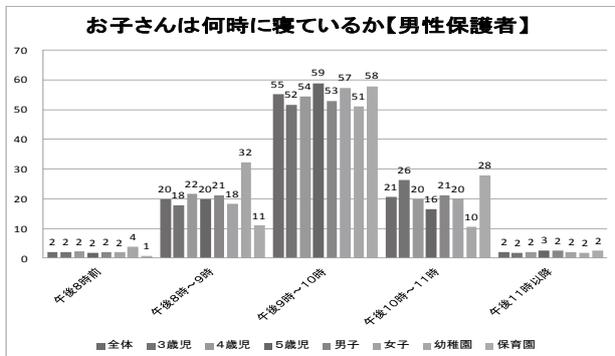
#### (2) 就寝時間について

##### あなたのお子さんは、だいたい何時に寝ていますか

- 男性女性ともに「午後9時～10時」と答えた割合が最も高い。
- 幼児が十分な睡眠をとるためには、9時前には寝る必要がある。しかし、「午後9時前（「午後8時前」と「8時から9時」を足したもの）」と答えた割合を見てみると、前回同様、相変わらず、両保護者とも3割に満たない。男性保護者については、年齢の低い3歳が5歳より2ポイント低く、また保育所（園）が幼稚園より24ポイント低くなっている。女性保護者についても男性保護者と同様、年齢の低い3歳が5歳より4ポイント割合が低く、前回同様、保育所（園）が幼稚園より遅

寝であり、27ポイント低くなっている。

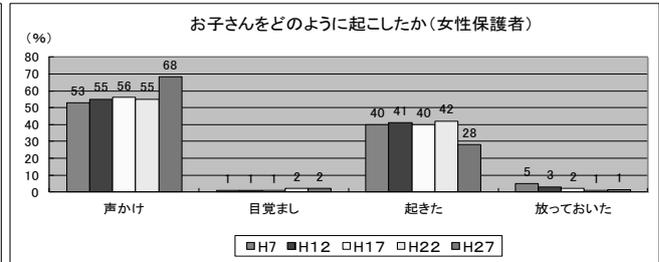
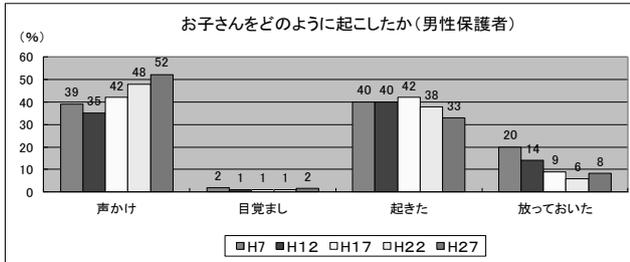
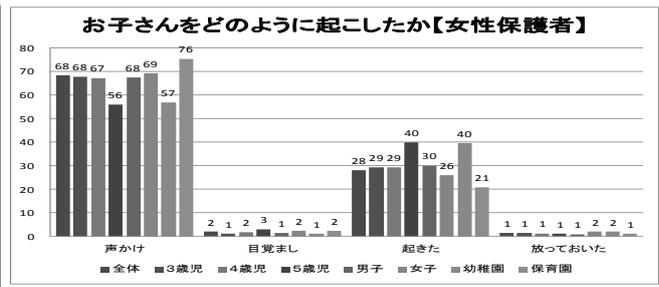
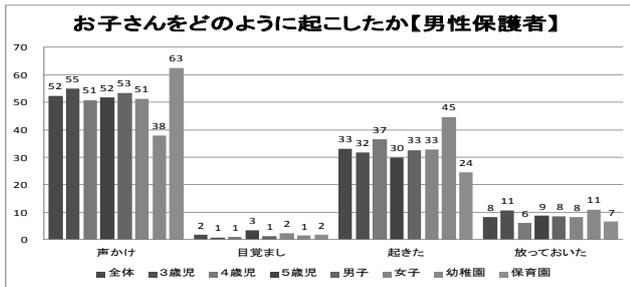
- 「子どもが午後10時以降に寝る（「午後10時から11時」と「午後11時以降」を足したものの）割合は男性保護者では前回19%に対し今回23%、女性保護者では前回19%に対し今回22%と増加している。保・幼別では男性保護者の割合は、幼稚園が12%、保育園が30%と18ポイント差となっている。女性保護者も同様に幼稚園が13%、保育園が28%と15ポイント差となっている。相変わらず保育園児の遅寝が顕著である。
- 保・幼間に見られる格差の要因として、保育所（園）では、午睡をとるところもあり、子どもの就寝が遅くなる要因の一つとして考えられる。その他、保育所（園）の場合、保護者、特に女性保護者も遅く帰ってくるため、子どもも寝る時間が自然と遅くなっているのではないかと考えられる。子どものよりよい成長のために早寝や睡眠の重要性に対する理解が不十分であることもあろう。また、保護者と子ども交流の重要性もあり、遅くに保護者と子どもで何かをしていたり、テレビやゲームを行ったりと、結果として子どもの生活時間が保護者の生活リズムに合わせられてしまっていることが懸念される。



### (3)起床の仕方について

**あなたは、今朝、お子さんをどのように起こしましたか**

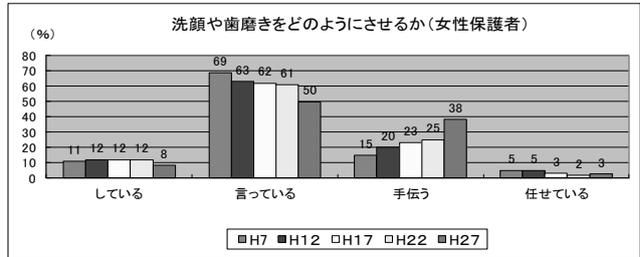
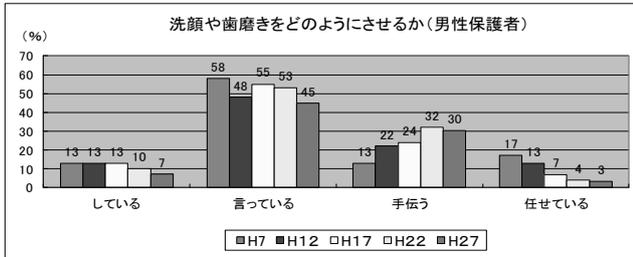
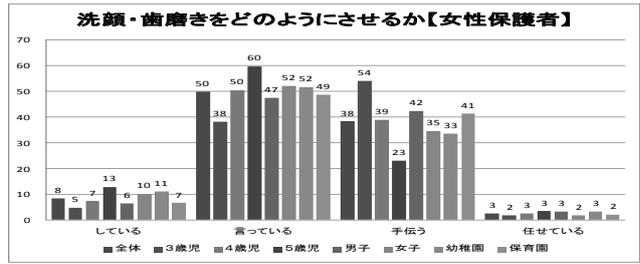
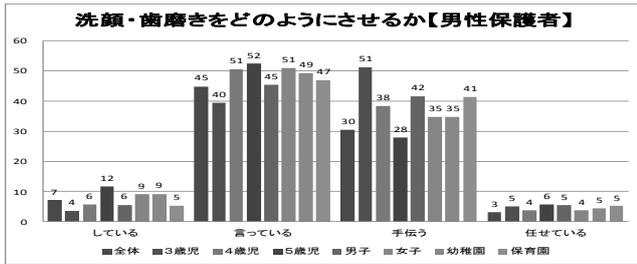
- 男性女性ともに「声をかけた」が半数を超え、「起こす前に子どもが自分で起きた」が約3割と答えた割合が高い。
- 自立起床の一つの指標として「起こす前に子どもが自分で起きた」と答えた割合は、男性女性ともに年齢間でそれほど差は見られない。保育所（園）と幼稚園とでは、保育所（園）が幼稚園より男性保護者21ポイント、女性保護者19ポイント、自立起床が前回同様に保育所（園）では出ていない実態があり、保幼間で差が見られた。
- 保育所（園）、幼稚園での開始時間の違いと保護者の就業条件から、保護者と子どもと一緒に自宅を出るためには「早く起こさないといけない」という事情も推測される。
- 前出の結果と併せて、就寝時間が遅く、起床時間も早い保育所（園）の子どもは、幼稚園の子どもに比べて睡眠が充分にとれていないことが推測され、そのために子ども自身も心身の状況として起きづらく、自立起床が困難に成りがちであると推察される。
- ◎ 「放っておいた」男性保護者の割合を平成7年度20%から27年度8%といった調査結果を比べると年々減少してきており、明らかに男性保護者の関わりが増えてきたことがわかる。
- ◎ 保・幼別ではどちらかというと幼稚園児の方が自立起床ができているといえるが、平成7年度の調査では保幼間の格差があまりなく、平成12・17・22年度と調査を進めるにつれ格差が大きくなってきており、今回も同様の結果であった。



#### (4) 洗顔・歯磨きについて

##### あなたは、お子さんに洗顔や歯磨きをどのようにさせていますか

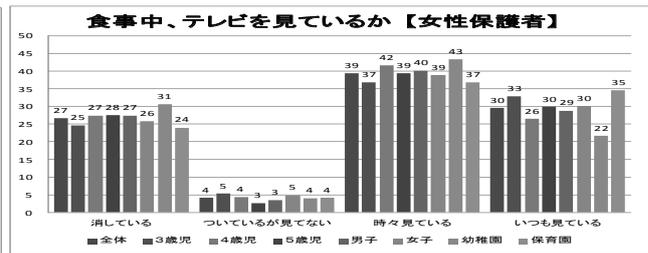
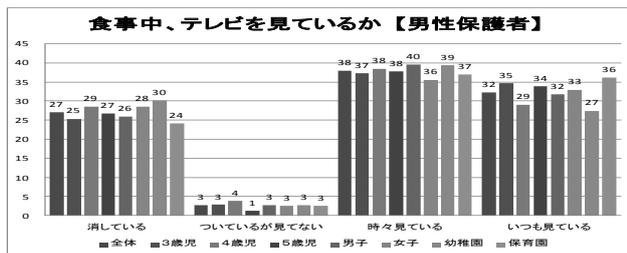
- 保育所（園）・幼稚園においても排便等に加えて洗顔・歯磨き指導を行う場合が多いが、洗顔・歯磨きは、やはり保護者を模倣しながら「自分もしたい」と真似するところから始まるのが基本であろう。調査では、男性女性ともに「言ってさせている」と答えた割合が最も高い。
- 「言ってさせている」と答えた割合をしてみると、男性保護者45%、女性保護者50%であり、ともに年齢が上がるにつれて「言ってさせる」割合が高く、逆に「手伝ってさせている」割合は年齢が上がるほど割合は低くなっている。手伝うところから、徐々に言うてできるようになっていくのであろう。
- 幼稚園は保育所（園）よりも「言ってさせている」割合が高く、逆に保育所（園）が「手伝っている」割合は高い。
- ◎ 男性女性別に平成7年度から22年度の変遷をみると、「手伝ってさせている」割合は男性保護者で平成7年度13%、平成12年度22%、平成17年度24%、平成22年度32%、今回30%と平成7年度に比べ17ポイントの増加、女性保護者で平成7年度15%、平成12年度20%、平成17年度23%、平成22年度25%、今回38%と平成7年度に比べ23ポイント増加しており、子どもの世話をする保護者は確実に増えている。つつい忙しくて、手伝ってしまっているという現状も推測される。
- ◎ 反対に「しなくても子どもに任せている」割合は男性保護者で平成7年度17%、平成12年度13%、平成17年度7%、平成22年度4%、今回3%と20年間で14ポイント下がっており、無関心や放任の男性保護者が減り、男性保護者の子育て参加が進んでいることが見て取れる。



## (5) 食事中のテレビ視聴について

### あなたのお子さんは、食事中、テレビを見ていますか

- 食事中はテレビが話のきっかけになることもあろうが、やはり、食事のときは食事に専念し、そして、直接の保護者と子どもとの会話が求められる。
- 「時々見ている」と答えた割合が男性保護者38%、女性保護者39%と、ともに最も高い。
- 「いつも見ている」と答えた割合は、男性保護者32%、女性保護者30%と、男性保護者が女性保護者より2ポイント高く、女性保護者より男性保護者の方が、子どもに食事中テレビを見せている傾向があることが分かる。約3分の1の保護者がテレビをつけっぱなしで、いわゆる「ながら族」となっているのではと懸念される。また、話題の乏しさや保護者と子どものコミュニケーション等の未熟さもあると考えられる。
- 幼稚園は保育所(園)よりも「消している」割合が高く、逆に保育所(園)が「いつも見ている」割合は高い。保育所(園)の保護者の場合、帰宅時間が遅い場合が多く、食事の際に、テレビに子守をさせていることも推測される。



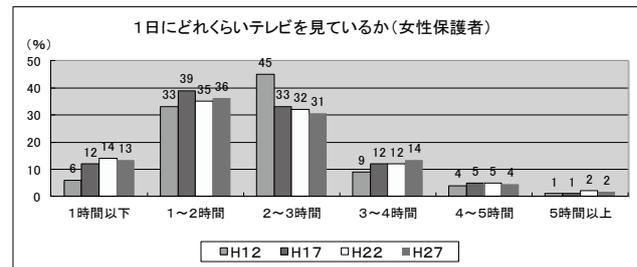
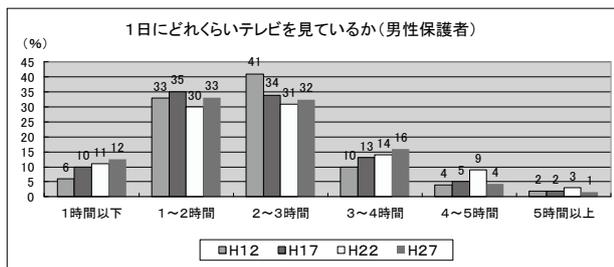
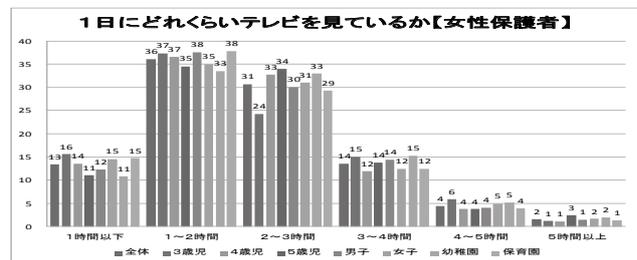
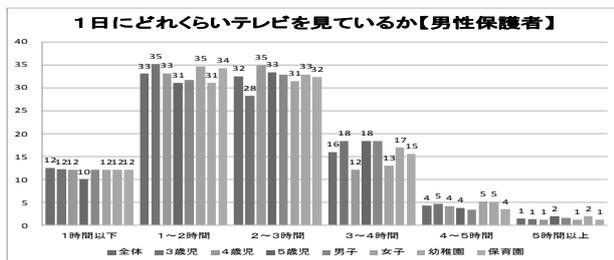
## (6) テレビの視聴時間について

### あなたのお子さんは、ふだん1日にどれくらいテレビ(DVD・ビデオも含めて)を見ていますか

高度情報通信ネットワーク社会の現在、インターネットに加えスマホ・ケータイが新しく入ってきているとはいえ、現代社会においては、子どもにとってだけでなく、保護者にとってもテレビは空気のような存在であり、生まれたときから情報を届けてくれる便利な機械である。子どもの早期教育にもD

VＤ・ビデオが活用されるなど、日本の子どものテレビ視聴の長さは世界の中でも割合が高く、(公社)日本小児科医会などその長時間接触の問題性を指摘する団体も出てきている。

- 「１～２時間」と答えた割合が最も高くなっている。
- 全体としてはテレビの視聴時間はわずかながら減少傾向にあると言えよう。
- 「３時間以上」と答えた割合を保育所(園)・幼稚園別に見てみると、男性保護者については、幼稚園が２４％、保育所(園)が２０％、女性保護者については、幼稚園が２２％、保育所(園)が１７％視聴していることがわかる。幼稚園児と保育園児の差はあまり見られなかった。
- ◎ 「３時間以上」と答えた割合の変遷を平成１２年度から２７年度で比べてみると、男性保護者が平成１２年度１６％に対し今回２１％で５ポイント、女性保護者が平成１２年度１４％に対し今回２０％で６ポイント増加しており、テレビを長時間見る子どもが増加傾向にあることが分かる。
- その要因として、長時間視聴の問題性への無理解、保護者自身がテレビ世代であること、帰宅後の家事等が忙しい中で、子守り代わりにテレビやDVD・ビデオを子どもに見せて過ごさせているのではと考えられる。

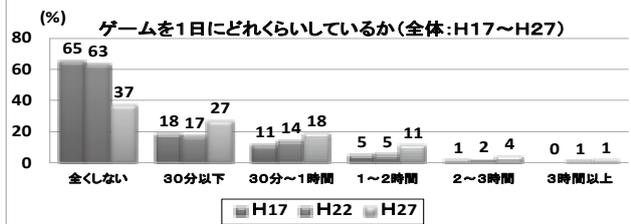
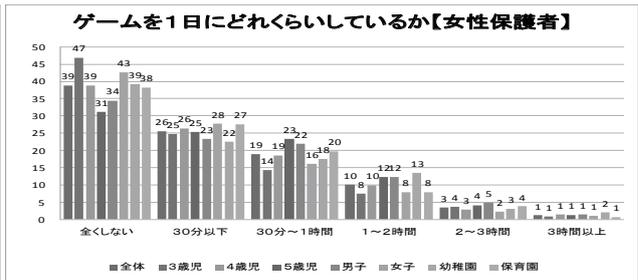
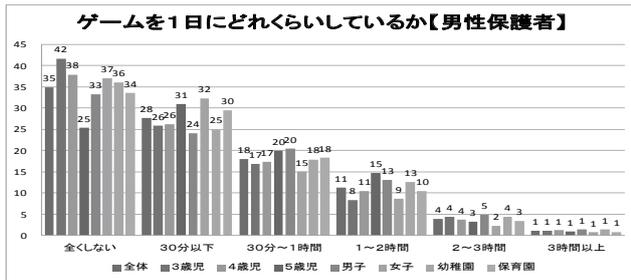


### (7) マルチメディア系ゲーム(テレビ、パソコン、ネット、携帯型、全て含む)をする時間について

**あなたのお子さんは、ゲーム(テレビ、パソコン、ネット、携帯型、全て含む)を1日どれくらいしていますか**

- 男性女性ともに「全くしない」と答えた割合が最も高く、男性保護者３５％、女性保護者３９％となっている。平成２２年度に比べ、男性保護者２７％、女性保護者２６％減少している。つまり、マルチメディア系ゲームをする子どもの割合が大幅に増えている。
- 「全くしない」と答えた割合を子どもの年齢別、男女別、保育所(園)・幼稚園別に見てみる。男性保護者については、３歳児は４２％、４歳児は３８％、５歳児は２５％、男子は３３％、女子は３７％、幼稚園は３６％、保育所(園)３４％となっている。女性保護者については、３歳児は４７％、４歳児は３９％、５歳児は３１％、男子は３４％、女子は４３％、幼稚園は３９％、保育所(園)は３８％となっている。
- マルチメディア系ゲームをする子どもは男子の割合が高く、年齢が上がるほどマルチメディア系ゲームをしている割合は高くなる。保育所(園)よりも幼稚園の子どもの方がマルチメディア系ゲームをしている割合が高い。
- ５歳児では、すでに全体で約７割がマルチメディア系ゲームをしているという実態である。

- 割合的には少ないにせよ、幼児の段階で既に1日に1時間以上マルチメディア系ゲームで遊んでいる子どもが全体で16%、2時間以上も5%いる。
- マルチメディア系ゲームは電子映像メディアの中でも依存性が高いことが指摘され始めている。今後は、幼児向け携帯型ゲームやネット型のゲーム、3Dゲームの普及が予想される。テレビの時間は若干減っても、マルチメディア系ゲームを合わせるとメディアへの時間接触は減っていないというのが現状である。室内のマルチメディア系ゲームではつつい一方通行になりがちであり、相互作用的に五感全部を使って子どもが活動することは少ない。テレビやマルチメディア系ゲームの視聴時間の増加は、単に視力や聴力への問題性だけでなく、人間形成の上でとても大切な保護者と子どもの交流や子ども自身の直接体験の機会を奪うものとして考えていく必要がある。



## 2 言葉のしつけと手伝い

言語（言葉）は知的活動（論理や思考）だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。小学校等での校内暴力、特に子ども同士の暴力の増加は、自己表現やコミュニケーション能力の不十分さが指摘されており、民主的な社会を創っていくうえで言葉に関する学習は不可欠である。言葉に関わる生活習慣は人間社会で生きる上で基本となるものであり、また、手伝いは家庭での役割や労働観の基礎をつくるものとして重要である。

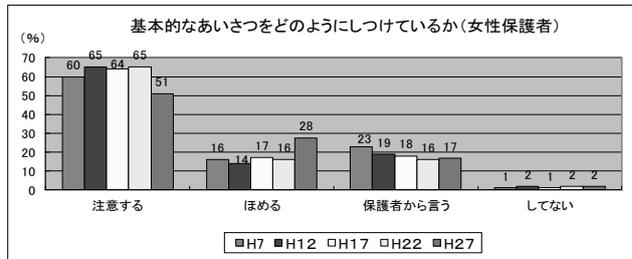
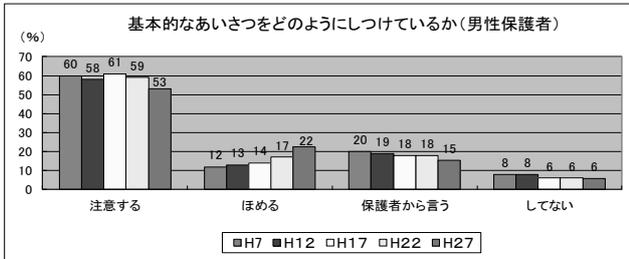
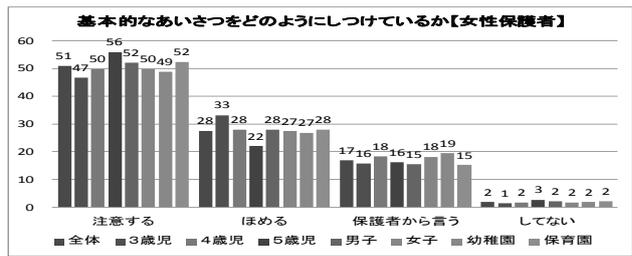
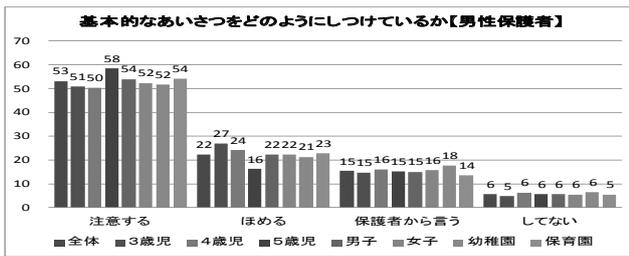
### (1) あいさつについて

**あなたは、お子さんに『はい』『ありがとう』『おはよう』などの基本的あいさつをどのようにしつけていますか**

人と人が関わるきっかけをつくってくれるあいさつは、人間社会の礼儀であると共に、コミュニケーションの基礎手段でもあり、生活習慣として身につけるべき重要なものと考えられる。

- 男性女性ともに「言わないときに注意する」と答えた割合が約5割と最も高くなっている。
- 「言わないときに注意する」回答を子どもの年齢別、男女別、保育所（園）・幼稚園別にみても、全体として「注意する」割合は約5割で平成7～22年度調査に比べやや減少しているが、男性女性ともに、子どもの年齢が上がるほど割合は高くなっている。
- 子どもが自然にそして主体的に学習していくことが大切であり、「言ったときにほめる」「保護者が言う」は各々2割程度であるが、真似てあいさつをし、子どもはほめられ続けて行うことが多く、保護者が率先してあいさつする姿勢を見せたり、あいさつの気持ちよさや交流の楽しさを味わ

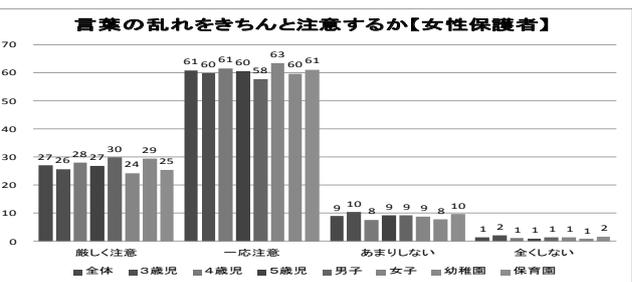
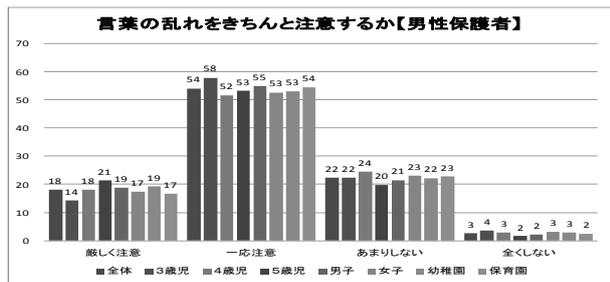
わせたりすることが基本となろう。



## (2) 言語・流行語について

**あなたは、お子さんの言葉の乱れや流行語の使用をきちんと注意していますか**

- 男性女性ともに「一応注意している」と答えた割合が5～6割台で最も割合が高くなっている。
- ◎ 「厳しく注意する」と答えた男性保護者の割合は平成7年度が12%、平成12年度が18%、平成17年度が24%、平成22年度が26%、今回が18%、女性保護者は平成7年度が20%、平成12年度が24%、平成17年度が25%、平成22年度が32%、今回が27%と、男性保護者、女性保護者ともに平成22年度までは増加していたが、今回調査では減少に転じている。注意の際に厳しく対応しようとする保護者が減ってきている。しかし、実際の幼児の言葉使いを聞くと、暴言や乱れた言葉を使ったり、命を軽くみるような表現であったりと、メディア等の影響からか、保護者の意図するところとは異なる現状も垣間見られる。



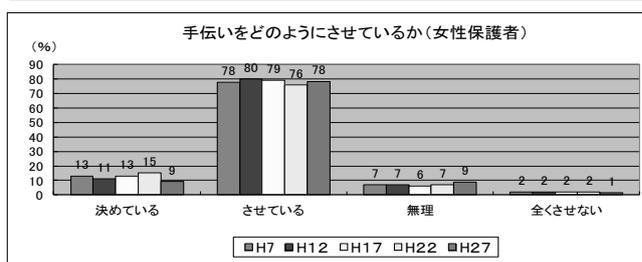
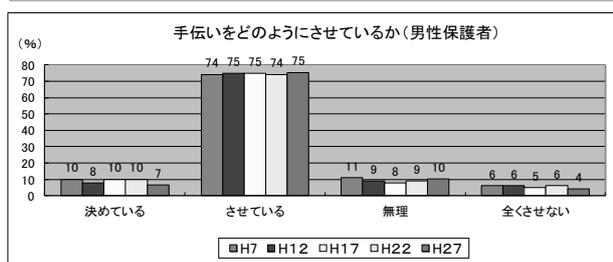
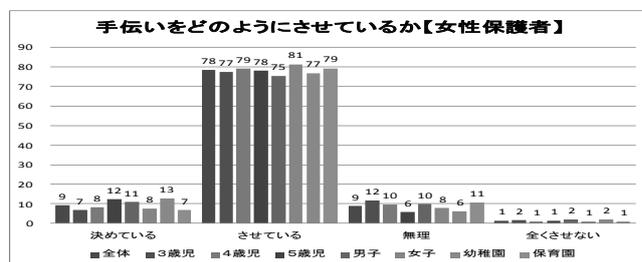
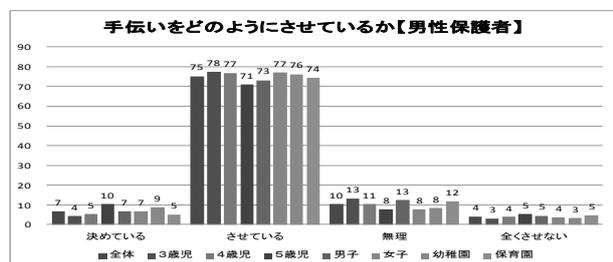
## (3) 手伝いについて

**あなたは、お子さんにどのようにお手伝いをさせていますか**

- 男性女性ともに「特に決めていないがさせている」と答えた割合が7割台と最も高くなっている。
- 「特に決めていないがさせている」割合を子どもの年齢別、男女別、保育所(園)・幼稚園別に見てみる。男性保護者については、3歳児は78%、4歳児は77%、5歳児は71%、男子は73%、女子は77%、幼稚園は76%、保育所(園)は74%となっている。女性保護者については、3歳児は77%、4歳児は79%、5歳児は78%、男子は75%、女子は81%、幼稚園は

77%、保育所（園）は79%となっている。

- ◎ 男性保護者、女性保護者はともに、ここ20年変わりがない。「決めてさせている」割合は、ここ20年間約1割と変化はあまり見られない。「無理」「まったくさせていない」保護者もいることから何らかの対応が必要であろう。



### 3 「保護者の養育態度」に関するまとめ

- 今回、夜9時前に寝ている幼児は22%であった。就寝時間に関する内容は前々回からの質問項目であり、前回、前々回は27%であり、今回の結果はさらに遅寝が進んでいる。「早寝早起き朝ごはん」の国民運動や「ねるちゃんけすちゃん」の福岡県の規則正しい生活習慣づくりの取組は小学生ではある程度の成果が見られたのではと思われるが、幼児に関しては厳しい状況である。要因としては保護者の労働状況の変化・長期化と共にメディアの肥大化かが考えられ、子どものよりよい成長を見据えた早寝のための取組が緊要であろう。「早寝早起き朝ごはん」の基本的なよりよい生活習慣づくりは子どものよりよい成長・発達には重要であり、幼児に対しては社会全体で緊急に焦点化して取り組むべき大きな課題といえよう。
- 「食事中にテレビがついている」割合は前回同様に約7割であるが、テレビ視聴時間は前前回から長期化の傾向にある。特にゲーム接触時間は26%も増加しており、5歳児では6割以上がゲームをするようになってきており、留意と対応が必要である。
- 「洗顔や歯磨き」の世話する割合の増加にみられるように、幼児が自分で判断して行動する前に保護者が口や手を出している傾向がさらに強まっている。時間や労力はかかっても、長く待ち、子どもの自立の力を育てていくことが求められよう。
- 自立起床は保育所（園）と幼稚園では20ポイントの差があり、平成7年から差は拡大し、保育所（園）の幼児は自立起床が難しいという結果であった。前述の遅寝の実態の中で、保護者の時間に合わせて起こされているという要因があるのではと考えられる。保護者への自立起床留意への啓発と共に、幼児期の子どもを持つ保護者には働き方に関し、子どもの生活時間に少しでも合わせて残業を少なくしたりする時間的な配慮や1日の労働時間を一時期短くできるなど選択の可能性を示すなどの就業先への働きかけが求められよう。
- お手伝いをさせている割合はここ20年約9割とあまり変わらない。大半の保護者が少しでも幼児に役割と責任を持たせていることは評価できるが、お手伝いをすることによる子どもへの習慣づけへの影響や自立の視点がどのくらい含まれているのか検証が必要である。また、約1割のお手伝いさせていない保護者に対して手伝いの意義や方法の理解を進め、幼児期の子どもを持つ家庭に対

してゆとりをもって幼児がお手伝いできる環境づくりを行う事が求められよう。

- 言葉への注意が平成7年から22年までは着実に増えていたが、今回、減少している。幼児の言葉状況が改善したことも考えられるが、言葉に関する保護者の重要性意識が減少したことも推測され、小・中学校での言語学習の総合的重視の教育と連動していく必要がある。

## 第3章 保護者と子どもの交流

### 1 子どもの認知

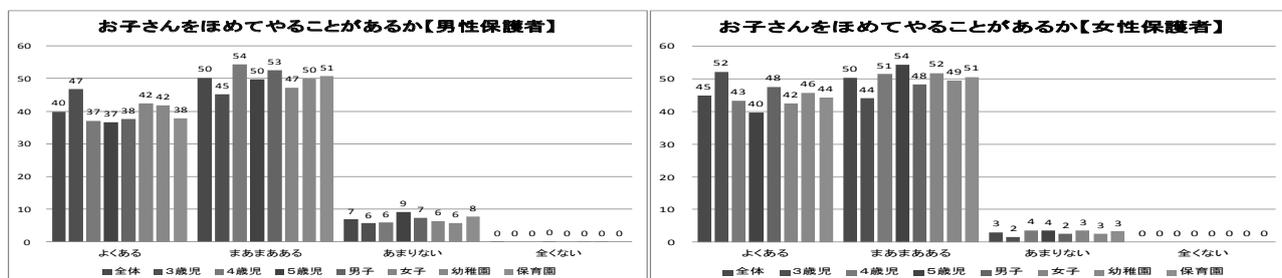
子どもは乳児期から幼児期にかけ、身近な人や周囲の物、自然などの環境と関わりを深め、興味・関心の対象を広げ、認識力や社会性を発達させていく。この時期に保護者が子どもにどう関わるかは、人間の一生において重要な位置を占めるといわれている。発達課題などのように、発達する上で、ある一定の年齢段階において達成すべきといわれるものもある。しかし、それぞれの子どもには、成長・発達による変化や個性があり、どの子にも一様に当てはまる子育てなど存在しないであろう。乳幼児は、愛情深い保護者の関わりに直接触れることで、愛着関係が形成され、安心して外の世界に向かうことができるものである。

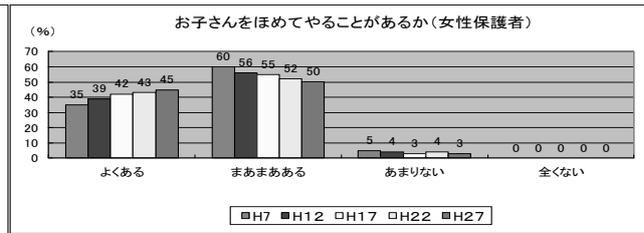
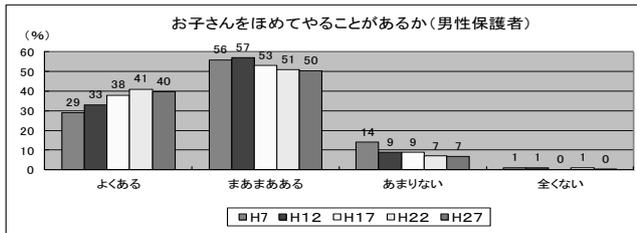
子どもとの関わりや意識の実態を保護者がどのようにとらえているのかを、「ほめる」「しかる」「男女の区別」という3つの設問から考えてみる。

#### (1) ほめることについて

##### あなたは、お子さんをほめてやることがありますか

- 「よくある」「まあまあある」と回答した男性保護者は合わせて90%、女性保護者は95%であり、男性女性ともに大半の保護者が子どものよいところを認めようとする姿勢をもっていることがわかる。
- 「よくある」（男性保護者40%、女性保護者45%）のみで比較してみると、平成7年度から着実に上昇し、男性保護者で11ポイント、女性保護者で10ポイント割合が高くなっている。また、男性保護者は、5歳児より3歳児の方が10ポイント高く、女性保護者では、3歳児は4歳児より9ポイント、5歳児より12ポイント高くなっている。これはおそらく加齢とともに子どもへの評価が甘くなっているためであろう。
- 経年比較において、男性保護者は、「よくある」が平成7年度の29%から、平成12年度の33%、平成17年度の38%、平成22年度の41%を経て、今回の40%へと増加傾向があり、「まあまあある」を含めても確実に増加している。
- 女性保護者は、「よくある」「まあまあある」の合計では、天井効果によるのか年度間に変化は認められない。しかし「よくある」の割合は平成7年度から今回は10ポイント増加している。自尊感情の向上や、ほめることによる積極性の増大など、ほめることの重要性が啓発や教育によって知られることが多くなったことや雑誌等でも示されたことが要因としてあげられよう。

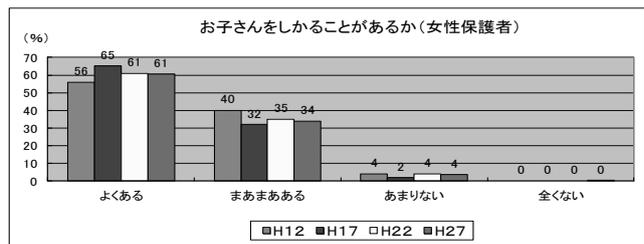
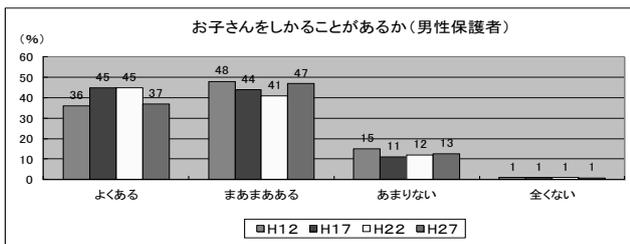
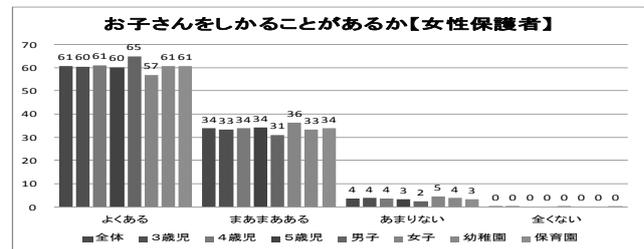
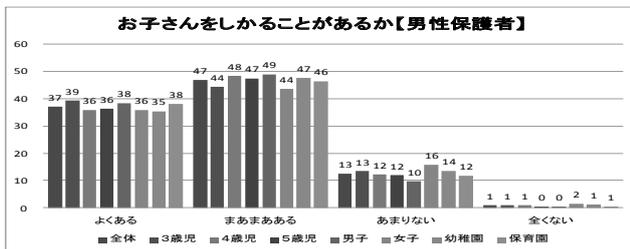




## (2)しかることについて

### あなたは、お子さんをしかることがありますか

- 日常的に接する機会が多いこともあってか、「よくある」と答えた男性保護者は37%、女性保護者は61%である。「まあまあある」という答えた男性保護者は47%、女性保護者が34%、また「あまりない」「全くない」を合わせると、男性保護者14%、女性保護者4%である。この場合、かなりの割合で見られる「まあまあある」という対応がどのようなものか明確ではないが、マナーやモラルに関する意識があいまいになっている保護者も少なくないのではと懸念される。
- 子どもの年齢別や男女、保育所(園)・幼稚園での比較において男性保護者、女性保護者ともに大きな差がみられない。
- ◎ 「よくある」と答えた割合は、平成12年度の男性保護者36%、女性保護者56%から、平成17年度は男性保護者45%、女性保護者65%へと男性女性ともに9ポイント上昇した。今回は、男性保護者は37%でピーク時の平成17年度から8ポイントの減少、女性保護者は61%で同様に4ポイントの減少が見られた。



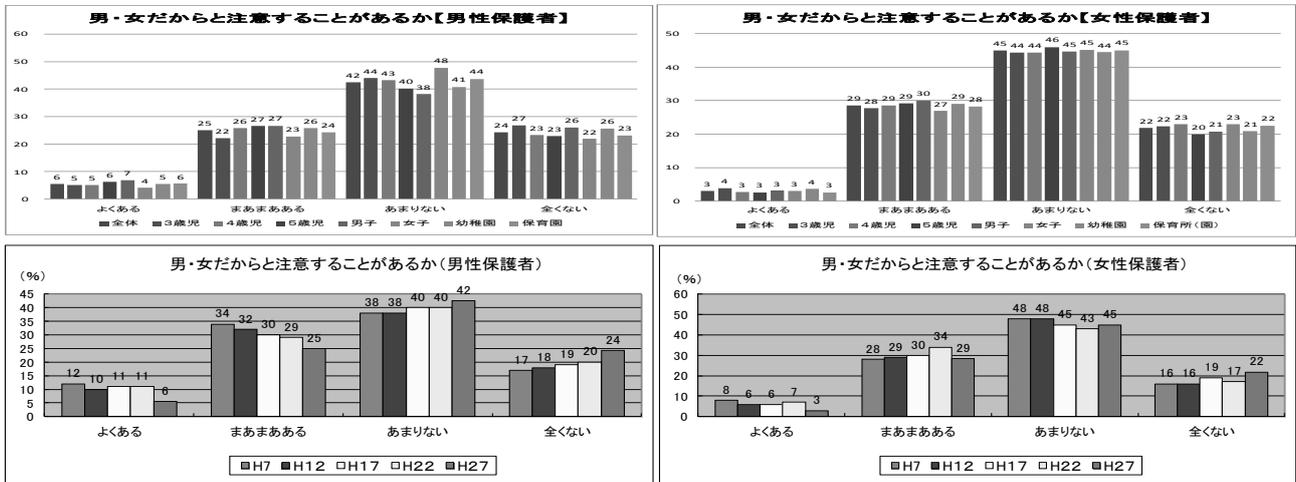
## (3)男女を区別した子育てについて

### あなたは、お子さんを『男の子だから』『女の子だから』といって注意したりしかったりすることがありますか

- 「よくある」「まあまあある」と回答した割合を子どもの男女別で比べてみると、男子の男性保護者では34%、女子の男性保護者では27%と7ポイントの開きがあり、前回同様、男性保護者は同性の男子へより強い性役割の期待を持つことがうかがえる。
- 「よくある」「まあまあある」と回答した男性保護者は31%、女性保護者は32%である。経年で比較すると、男性女性ともに平成22年度に比べ、大きく減少している。また、男性保護者と

女性保護者の割合がここ20年で近づいてきているという実態があった。これらの割合は子どもの年齢別にみてもほとんど差はみられなかった。

- 「よくある」「まあまあある」と回答した男性保護者は平成7年度の46%より15ポイント下がっている。女性保護者については、平成7年度の36%から4ポイント下がっている。



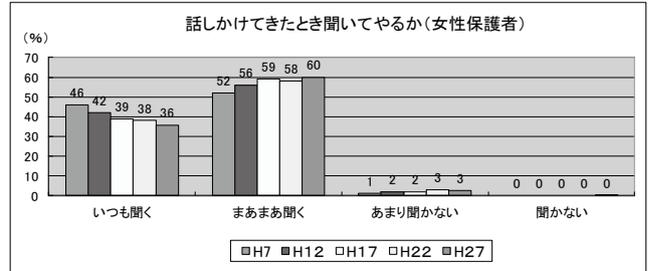
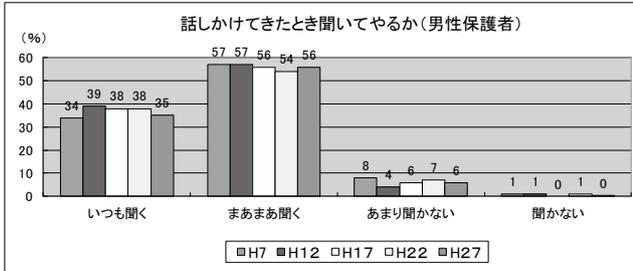
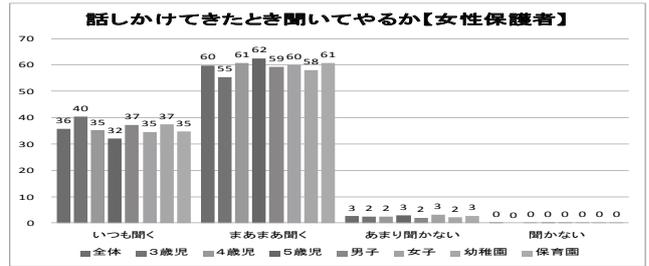
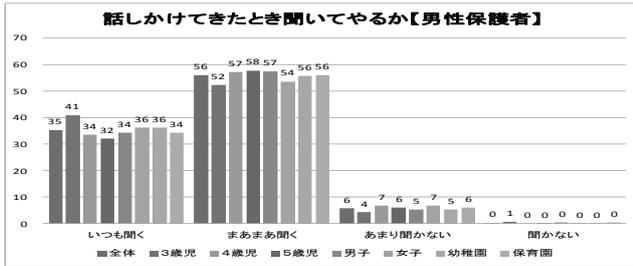
## 2 子どもの受容

保護者による共感的な受容はまずもって重要である。人は他者に受容されることによって、自信を持ち自己の成長を遂げていくことができる。特に乳幼児は、愛情深い保護者の受容や関わりに直接触れることで、安心して外の世界に向かうことができるものである。保護者が子どもをどのように受容しているのかを、「対話」「スキンシップ」「読み聞かせ」「携帯型端末の使用頻度」という4つの設問から考えてみる。

### (1)対話について

**あなたは、子どもが『なに？どうして？』とたずねてきたり、話しかけたりしてきたとき、話を聞いていますか**

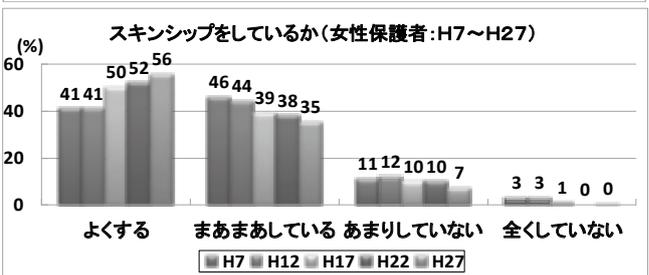
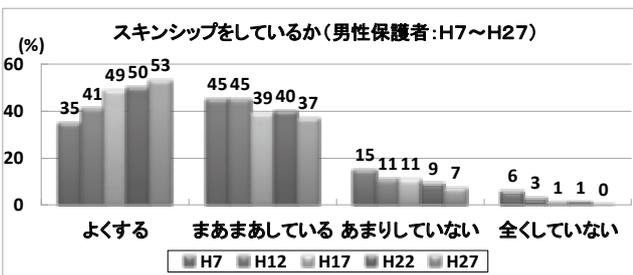
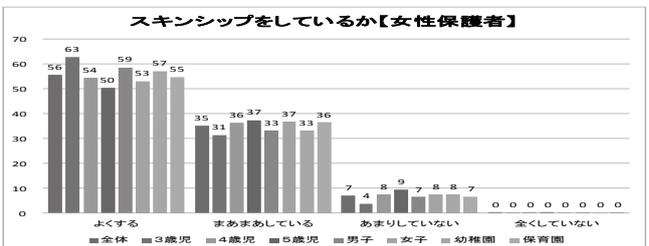
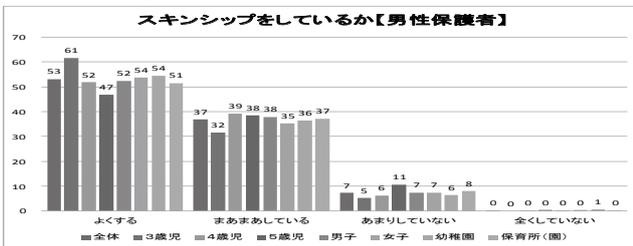
- 「いつも聞いている」「まあまあ聞いている」と回答したのは、男性保護者が合わせて91%、女性保護者が96%である。その中で「いつも聞く」は男性保護者35%、女性保護者36%、「まあまあ聞く」が男性保護者56%、女性保護者60%、さらに「あまり聞かない」が男性保護者6%、女性保護者3%である。それらの割合は、子どもの年齢、男女、保育所(園)・幼稚園においてもほとんど差異はなく、大半の保護者は、子どもの年齢、男女、保育所(園)・幼稚園を問わず、ある程度子どもからの話しかけに耳を傾けているようである。
- 過半数を占める「まあまあ聞く」がどの程度の頻度で、どのような聞き方をしているかは、個々の人の判断に委ねられているため、その点には留意が必要であろう。
- ◎ 経年比較では、「いつも聞く」女性保護者が平成7年度46%、平成12年度42%、平成17年度39%、平成22年度38%、今回36%と減少していることがわかり、じつくりと子どもに向かいあう女性保護者が近年少なくなっているのではと懸念される。多忙化がいわれるなか、「いつも聞く」傾聴の姿勢は、子育てにおいて今後ますます不可欠であろう。
- ◎ 共感的に受容し、相互に認め合い、直接の体感的相互作用を行う中で、子どもの主体性を引き出していくような対話がなされているかももう一度考えていく必要があるだろう。



## (2) スキンシップについて

### あなたは、お子さんとスキンシップ(だっこやおんぶなど)をしていますか

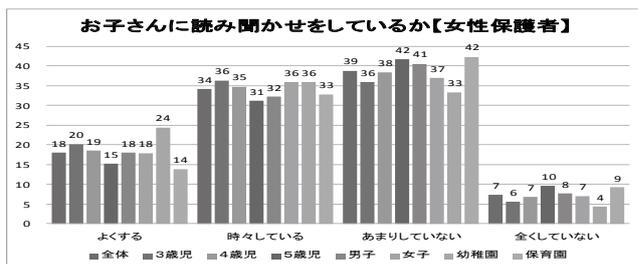
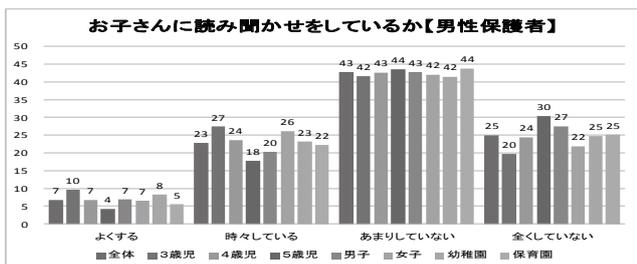
- 「よくする」「まあまあしている」と回答した男性保護者は90%、女性保護者が91%である。子どもの年齢別にみると、幼い3歳児が男性女性ともに最も高い割合を示しているのは自然なことであろうが、4・5歳児にも不可欠である。
- 男女別、保育所(園)・幼稚園による差異はほとんどみられない。
- ◎ 「よくする」「まあまあしている」の経年比較をみると、男性保護者は平成7年度80%、平成12年度86%、平成17年度88%、平成22年度90%、今回90%と増加している。中でも「よくする」は、20年前の35%から、今回53%へと、18ポイントのめざましい伸びである。女性保護者の方も「よくする」は20年間で15ポイント増加し、今回56%である。スキンシップやアタッチメントの重要性に関する啓発・教育が進められた成果であろう。
- ◎ 「よくする」は、男性保護者と女性保護者の間で20年前には6ポイントの開きがあったのに対して、今回は3ポイントと、その差が縮まっているところが興味深い。核家族化・少子化の中でスキンシップを大切にしている保護者の姿が見えるが、このスキンシップという保護者と子どものコミュニケーションを地域活動や異年齢・異世代交流へと家庭外の世界に拡充していくことが求められよう。



### (3) 読み聞かせについて

#### あなたは、お子さんに読み聞かせをしていますか

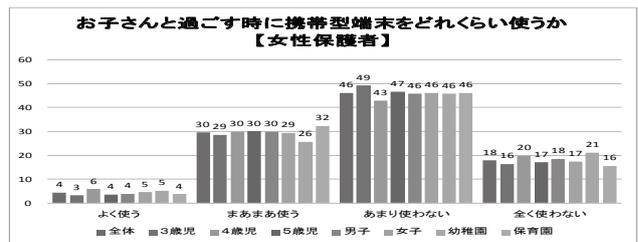
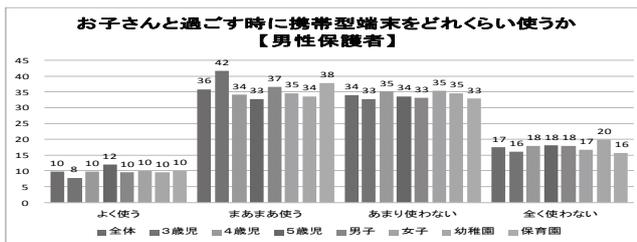
- 「よくする」「時々している」と回答した男性保護者は30%、女性保護者は52%、「あまりしていない」「全くしていない」と回答した男性保護者は68%、女性保護者は46%と、女性保護者に比べて男性保護者の方が著しく読み聞かせをしていないことが分かる。また、前回調査に比べ、男性保護者、女性保護者ともに読み聞かせをする割合が減少している。
- 男子女子による差異はほとんど見られない。
- 「よくする」と回答した女性保護者は、幼稚園24%、保育所(園)14%で、幼稚園が10ポイント高かった。



### (4) 携帯型端末の使用頻度について

#### あなたは、お子さんとちょっとした時間を過ごす時に、携帯型端末(スマホなど)をどれくらい使っていますか

- 「よく使う」「まあまあ使う」と回答した男性保護者は46%、女性保護者は34%、「あまり使わない」「全く使わない」と回答した男性保護者は51%、女性保護者は64%と、女性保護者に比べて男性保護者の方が携帯端末を使用していることが分かる。それらの割合は、子どもの年齢、男女、保育所(園)・幼稚園においてもほとんど差異はない。



## 3 「保護者と子どもの交流」に関するまとめ

- 子どもをほめる割合は着実に増加傾向にあり、自尊感情の向上も今後は期待されるのではと考えられる。今後、子ども自身が感じ、気づき、考え、自分の存在を肯定的にとらえていける家庭教育が求められよう。逆に叱ることは平成17年度から減少傾向にあり、このことはほめることの重要性が示されているからと思われる。しつけや自立の視点からはしかることも重要であり、普段から、しかられる意味を理解し、子どもが自分自身を認めることのできる交流が必要であろう。
- スキンシップの割合が増加していることは保護者と子どものよりよい交流状況の表れではと思われる。愛着形成の視点からも傾聴や共感的受容は重要であるが、「子どもの話をいつも聞く」女性保護者の割合は20年間で着実に減少している。子どもが安心して家庭生活をおくるためにもいつも子どもの疑問などにも応え、じっくりと聞ける心のゆとりとともに、子どもとの共通の時間を

確保するため、保護者ができるだけ遅くない時間に帰宅できるなど、ゆとりをもって交流が図れるための環境づくりが求められよう。

- 前回に比べ、読み聞かせをする割合は減少している。読み聞かせは保護者と子どもの関係づくりにも寄与することが考えられる。今回、新しく加えられた質問項目で「子どもと過ごす時間に携帯型端末を使用している」割合は、男性保護者で半数近く、女性保護者では約3分の1とかなりの割合で、今後ますます増えるであろう。このことから、保護者と子どものコミュニケーションの時間が携帯型端末に奪われている実態がわかる。確かに幼児と男性保護者のゲームなどの携帯型端末による交流はみられるようだが、交流が携帯型端末に偏っている場合には読み聞かせや体を使った遊びを共にすることを重視するなどの留意が必要であろう。

## 第4章 保護者の養育意識

### 1 養育の目標と家庭外の教育

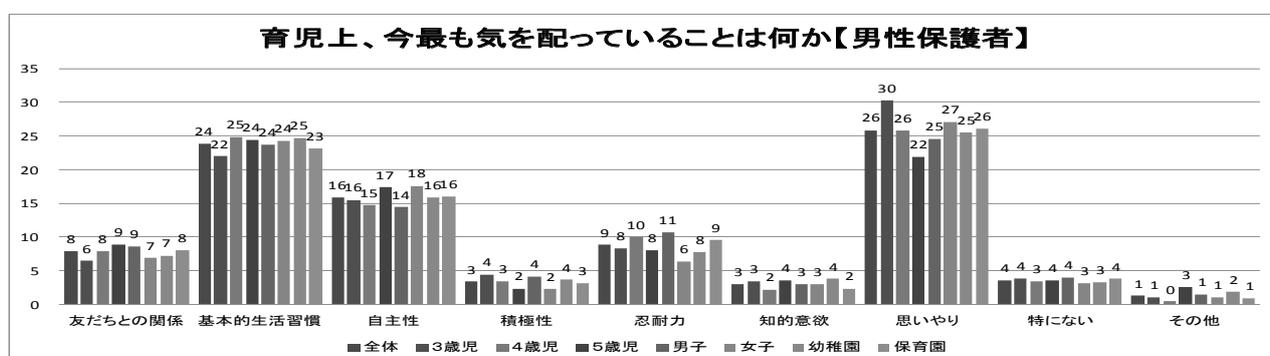
子育ての在り方について価値観が多様化する中、根本的な子育ての在り方が見えにくくなってきているといわれる。子どもを育てる上で留意していること、家庭外で学ばせたいことの背景には、「このような子どもに育ててほしい」という保護者の期待像が描かれている。

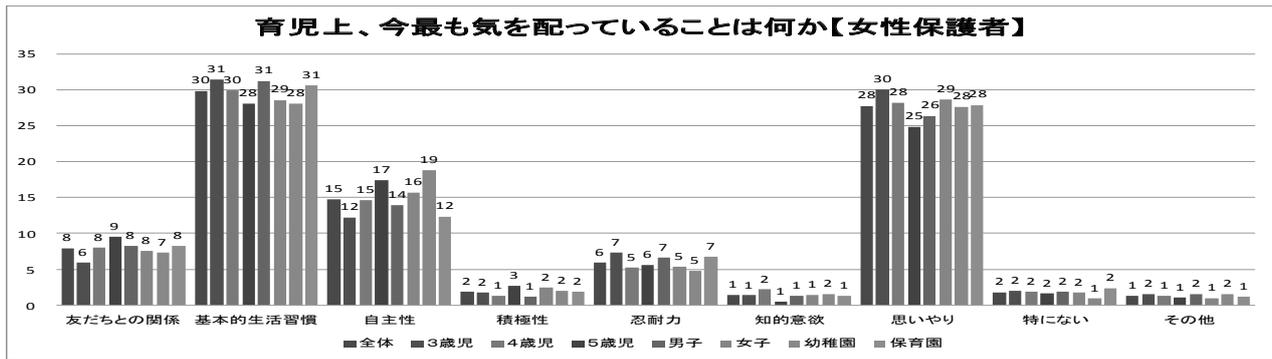
それらの養育上の目標に対する意識、そして家庭外の教育を、「育てる上での重点」「習い事」の2つの設問から考える。

#### (1) 育てる上での重点について

**あなたが、お子さんを育てる上で、今、最も気を配っていることは、次のうちのどれですか**

- 平成12年度から22年度の調査で最も多かったのは、男性女性ともに「思いやり」であった。今回の調査では男性保護者は「思いやり」26%、女性保護者は「基本的な生活習慣」30%が最も多かった。
- 次の設問に現れるが、約4割の保護者が習い事に通わせている現状の中で「知的意欲」は男性保護者3%、女性保護者1%と前回同様、最も回答の割合は低い。
- ◎ 平成7年度は男性保護者の1位が「生活習慣」、2位「思いやり」、3位「自主性」であった。女性保護者は、「生活習慣」と「思いやり」が29%で同率1位、3位が16%の「自主性」であった。平成12年度から男性女性ともに「思いやり」が1位となって続いていたが、今回調査では女性保護者の1位は「基本的な生活習慣」となっている。
- ◎ この20年間でみてとれるのは、変わらず「思いやり」「基本的な生活習慣」「自主性」から見える個人の自立である。
- ◎ 「生活習慣」の順位が下がっているのは、ある程度基本的な生活習慣に関しては取組がなされ定着してきていること、基本的な生活習慣の確立が幼児期の重要な発達課題であるにもかかわらず、家庭におけるその取り組みが保育所(園)・幼稚園にお任せ傾向にあるなど、年々おろそかになっているという保育現場からの訴えの印象を裏付けているともいえよう。まず、保護者との信頼関係の構築の上、子どもの自立に向けた協働の取り組みが求められる。
- ◎ 日本の子どもの孤立化が叫ばれる中、意図的な子どもの人間関係づくり能力の育成とともに、肝心な時に支えとなる保護者の人間関係を多面的に育てていける取組が求められよう。

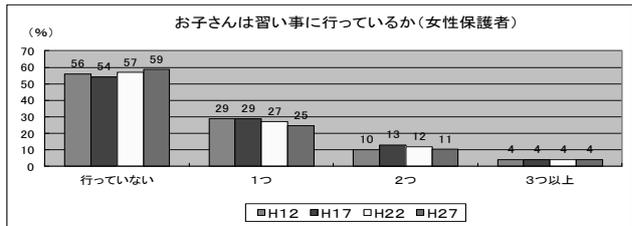
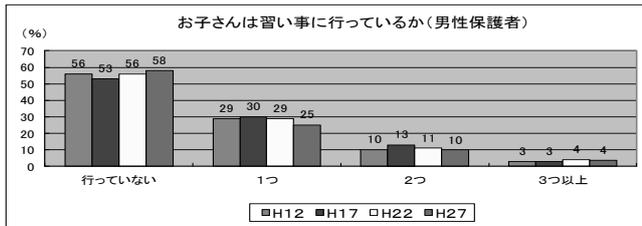
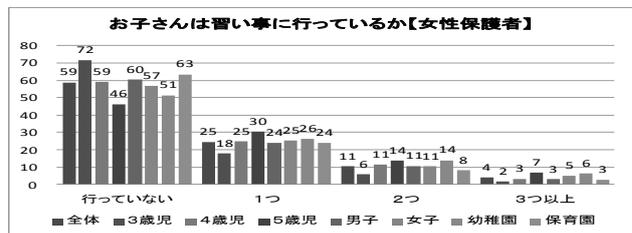
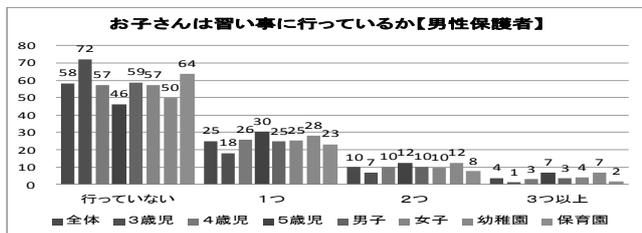




## (2)習い事について

### お子さんは習い事に行っていますか

- 女性保護者のデータで子どもの年齢別に見ると、「行っていない」が3歳児で72%であったのが、5歳児で46%になり、年長児の約半数が何らかの習い事をしていることになる（以下も女性保護者のデータによる）。
- 習い事の数で5歳児でみると「1つ」が30%、「2つ」が14%である。また「3つ以上」が7%あり、この場合は一日1つの習い事に行くとしても、週の半分は習い事に行っていることになる。
- 男子女子別では、少なくとも1つ以上習い事をしている男子が38%（「1つ」「2つ」「3つ以上」の合計した値）で、41%の女子の方が若干多い。これは外で元気に遊ぶことと、ピアノなどの技能を身につけることへの期待が男子女子で多少違うことによるのではないかと考えられる。
- 幼稚園児で習い事に行っているのは46%、保育所（園）児は35%である。この11ポイントの開きが意味するところは、働いている保護者にとって、1つは習い事への送迎時間確保の難しさを示しており、習い事への関心が薄いというものではないであろう。ちなみに近年、保育所（園）・幼稚園でも、知的な面での学力を重視したり、保育時間内に英会話やスイミングの教室を開設したりしているところの人气が高いようである。
- 子どもの行っている習い事の数割合は、全体的に男性女性共に回答はほぼ同じである。下図のように、ここ15年ではあまり変化がみられない。



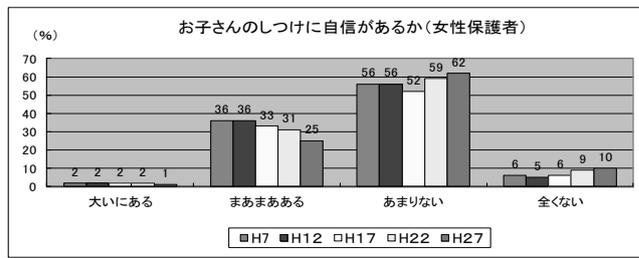
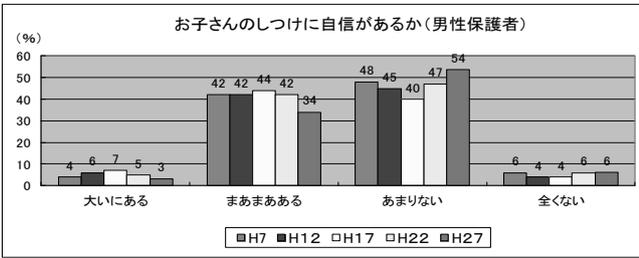
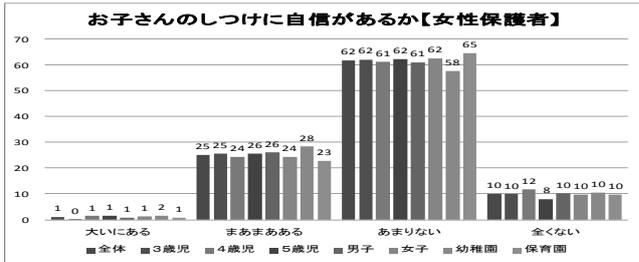
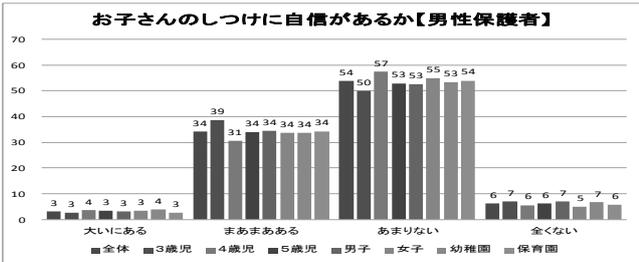
## 2 自己評価

保護者自身が家庭教育について自己をどう評価しているのかを知るということは、保護者のニーズ把握をすることにつながることである。また、今後の家庭教育施策を考えていく上でも重要である。「子育ては親育て」とよく言われるが、思い通りにならない子どもを前にして、保護者は日々自身の子育てを振り返ることと、そうした試行錯誤の中で、保護者は学びながら、保護者も子ども成長の軌跡を踏んでいくものであろう。保護者として子育てに関わる自分の在り方をどのように意識しているのか、「しつけの自信」「しつけの甘さ」の2つの設問から考える。

### (1)しつけの自信について

**あなたは、お子さんのしつけに自信がありますか**

- しつけに自信がある（「大いにある」「まあまあある」の合計、以下同じ）と回答した男性保護者は37%、女性保護者はそれより11ポイント下がって26%である。まだまだ女性は育児の中心的な役割を担っているため、直接子どもとの関わりの深い女性保護者の方が、現実的な面からの感じ方が強いのではと考えられる。
- 「しつけに自信がある」は、子どもの年齢、男子女子、保育所（園）・幼稚園による比較において、男性女性ともに差が見られない。
- 保育所（園）児の女性保護者は、幼稚園児の女性保護者よりも6ポイント低い値である。本来、幼児期のしつけはかなりの根気と時間を要するものであり、仕事をしながら、そこに十分関われないという思いや現実的な悩みが、女性保護者の自己評価にも影響していると思われる。
- ◎ 経年比較によると、「しつけに自信のある」女性保護者が、平成7年度は38%であったのに対し、今回の調査では26%に減少している。この減少が意味するところは、女性保護者自身も子ども時代から乳幼児に関わる経験が乏しかったり、少子高齢・核家族社会の中で、育児不安を抱え孤立化したりしている女性保護者の増加が影響しているのではないかと考えられる。特に増加してきている「まったく自信がない」1割の保護者への対応が緊要である。



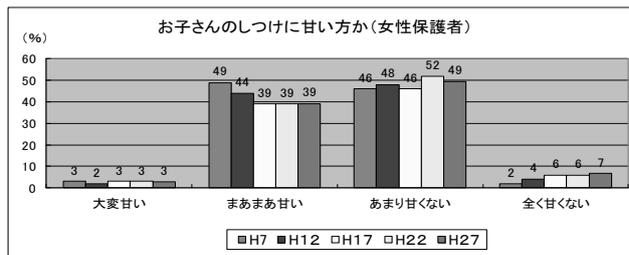
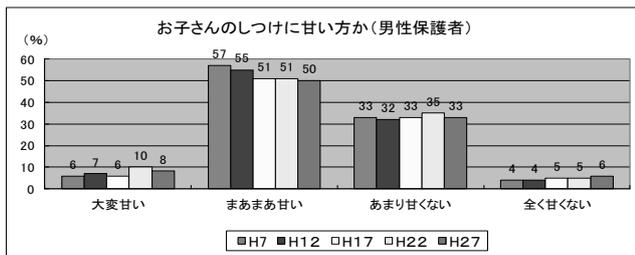
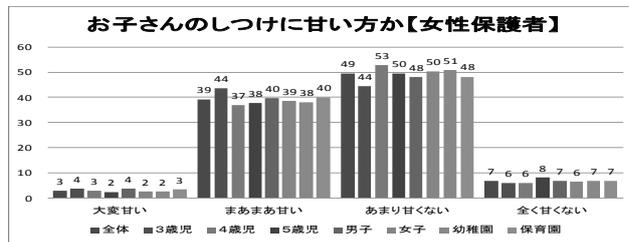
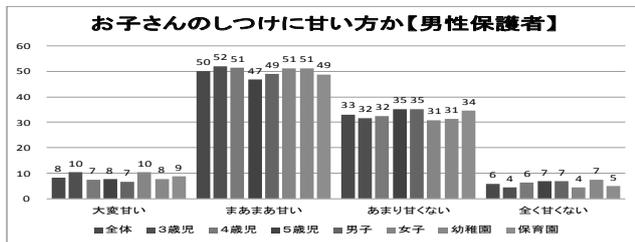
### (2)しつけの甘さについて

**あなたは、お子さんのしつけに甘い方ですか**

- 「大変甘い方だと思う」「まあまあ甘い方だと思う」と回答した男性保護者は合わせて58%、

女性保護者は42%であり、過半数の男性保護者が子どもに甘いと自覚している。

- ◎ 平成7年度との比較では、20年間でしつけに甘い（「大変甘い」と「まあまあ甘い」の合計）男性保護者は5ポイント、女性保護者は10ポイント減少している。



### 3 養育の悩みや課題

保護者は子どもを養育する上で、様々な悩みに出会う。悩みながら、わが子の成長に見合った働きかけや環境を整えることは、子どもの成長を補うとともに、親として成長する上でも大切なことである。しかし多様な情報や価値観とともにめまぐるしく変化する現代社会の中で、保護者自身が悩みの本質や背景を探り、それがどのようなものであるかを見極め、実際に取り組むことには、かなりの負担やストレスが伴うであろう。

また、保護者が自分自身の考えにこだわり過ぎて、期待する子ども像と目の前の子どもの姿が一致しなかったり、保護者自身にその年代の発達課題が重くのしかかっていたりしている場合には、それらが子育ての悩みを、よりいっそう浮き立たせることになるであろう。

さらに近年多発している子どもをめぐる犯罪などにより安心して子育てできない環境や、子どもの心の成長について不安を抱く保護者は少なくない。また、こういった悩みなどに対し、今後、対応する手立てを講じる必要があるだろう。

養育上の悩みや課題の実態について、「子育ての楽しさ」「子育ての孤立感」「イライラする気持ち」「子どもに関する悩み」「子育てに関する悩み」「悩みの解決法」「望んでいる子育て支援」の7つの設問から考えてみる。

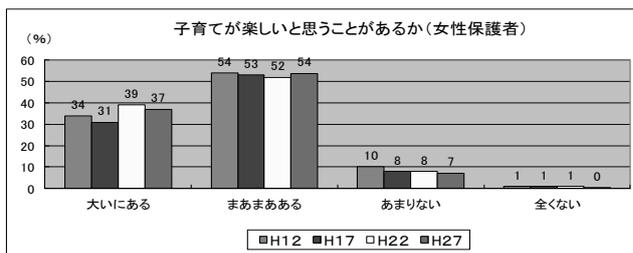
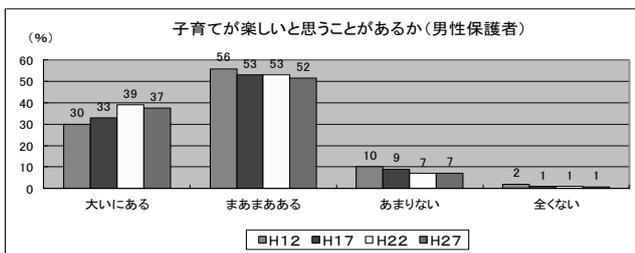
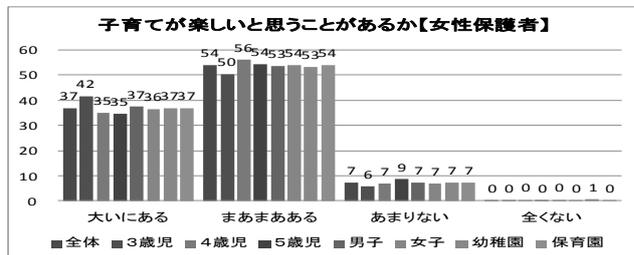
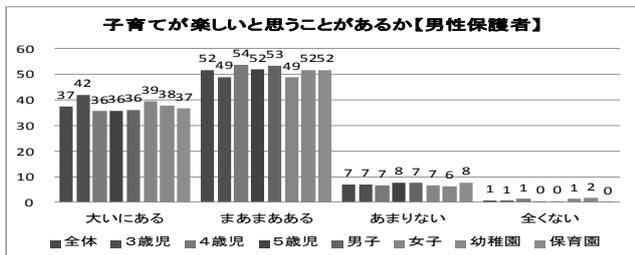
#### (1) 子育ての楽しさについて

**あなたは、子育てが楽しいと思うことがありますか**

- 「大いにある」「まあまあある」と回答した男性保護者は89%、女性保護者が91%、また「大いにある」が男性保護者37%、女性保護者37%である。これらの割合は子どもの男女別や、保育所（園）・幼稚園間でもほとんど変わらない。大半の保護者は楽しいと感じられることがあるというのが実態である。今後、「あまりない」「全くない」と回答した1割近くの保護者への対応が子どものよりよい成長・発達の視点からも求められるところである。
- 子どもの年齢でみると4・5歳児に比べて、3歳児の男性保護者・女性保護者は「大いにある」の回答者が6～7ポイント高くなっている。

の回答者が6～7ポイント高くなっている。

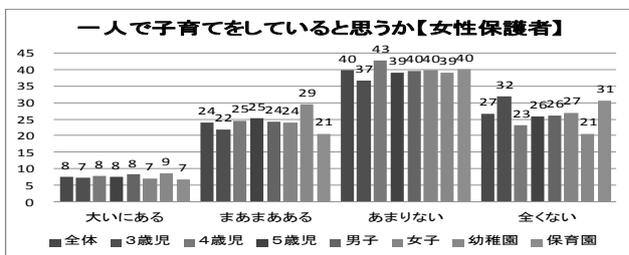
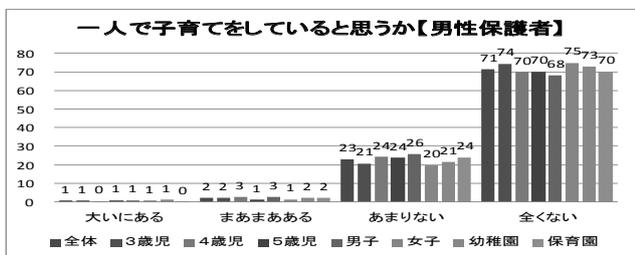
- ◎ 平成12年度と今回のデータを比較すると、15年間で「大いにある」と回答した男性保護者は7ポイント増加し、女性保護者は3ポイント増加している。子育て支援の充実など、楽しめる環境づくりが若干でも増えてきていることが推測される。

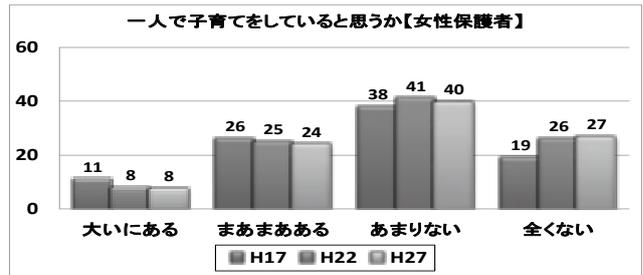
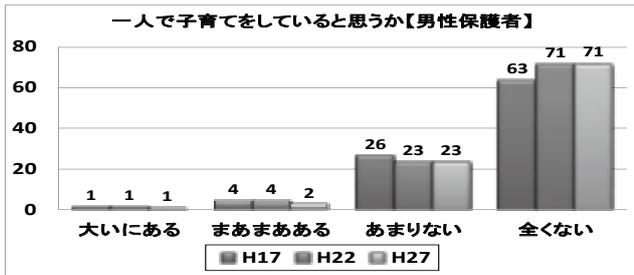


## (2) 子育ての孤立感について

### あなたは、自分ひとりで子育てをしていると思うことがありますか

- 「大いにある」「まあまあある」と回答した男性保護者は3%、女性保護者は32%である。この29ポイントの開きが示すように、男性保護者の育児参加が進展してきたとはいえ、まだまだ女性保護者の方にその負担が偏っているのが現状であろう。
- これらの割合は、男性女性ともに子どもの年齢や男女別、保育所(園)・幼稚園による比較においても大きな違いはみられない。
- ◎ 平成17年度の調査と比較すると、「大いにある」と「まあまあある」を合わせた割合は、17年度は男性保護者5%、女性保護者37%であり、今回は男性保護者3%、女性保護者32%であり、男性女性間での差がこの10年間で多少なりとも縮まっている。一方、逆の視点から、ひとりで子育てをしていると思うことが「あまりない」「全くない」という回答をみると、17年度より今回の調査で女性保護者に10ポイントの増加がみられた。この増加は、女性保護者の孤立感が緩和されてきたものと考えられる。

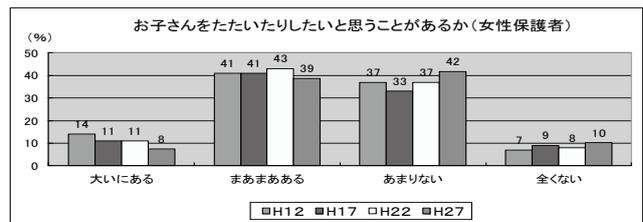
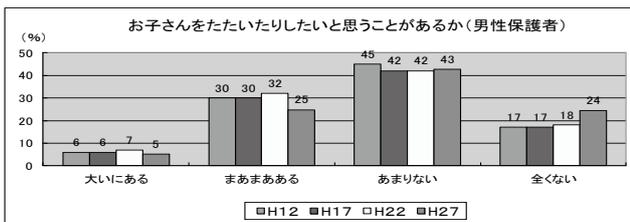
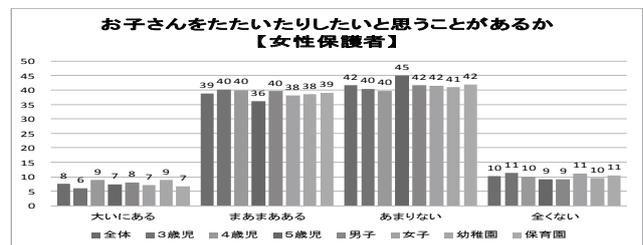
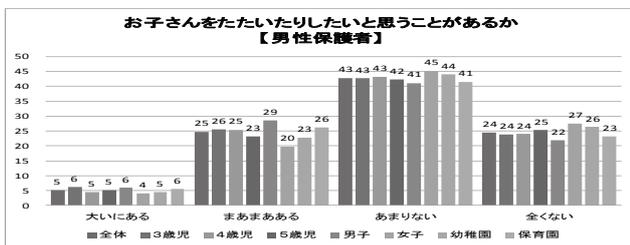




### (3) イライラ感について

**あなたは、子育てにおいてイライラしたりして、お子さんをたたいたりしたいと思うことがどの程度ありますか**

- 「大いにある」「まあまあある」という男性保護者は30%、女性保護者は47%で、平成12年度に比べ若干減少している。しかし「大いにある」という女性保護者は8%、すなわち1割近くの女性保護者が、虐待にもつながるようなイライラ感に度々襲われていることになる。
- 子どもの年齢を見ると、4歳児の女性保護者は5歳児より6ポイント高くなっている。これはやはり、4歳児が多くの手助けを必要としながらも、活発な自己主張をくりひろげるために、しつける側の保護者もその対処に精神的なエネルギーを消耗しやすいということかもしれない。
- 平成12年度から平成22年度までの10年間で大きな違いは見られなかったが、今回調査では「あまりない」「全くない」が若干、増加傾向である。今後もイライラ意識への解決策を講じることは子どもにとっても重要である。



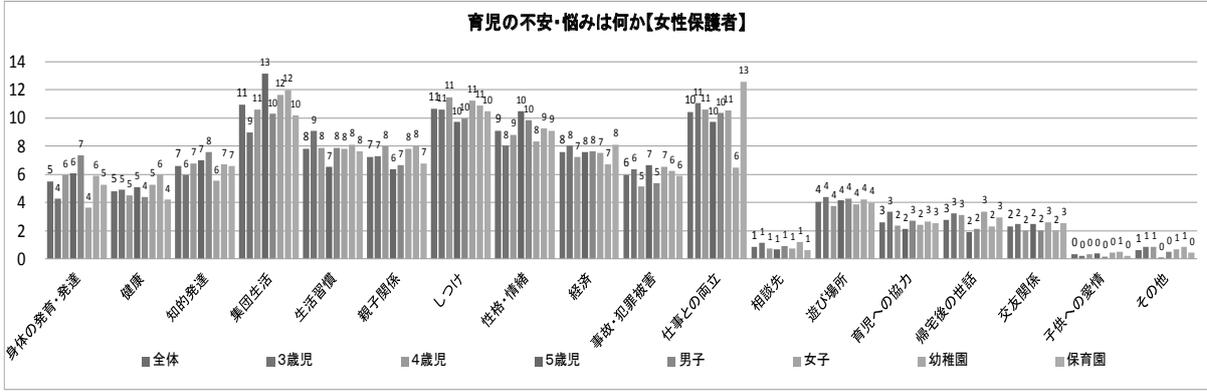
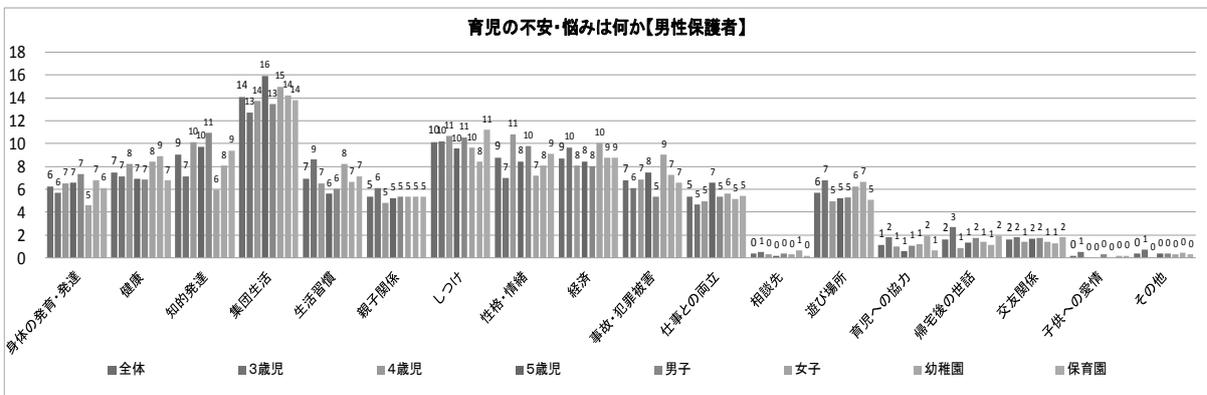
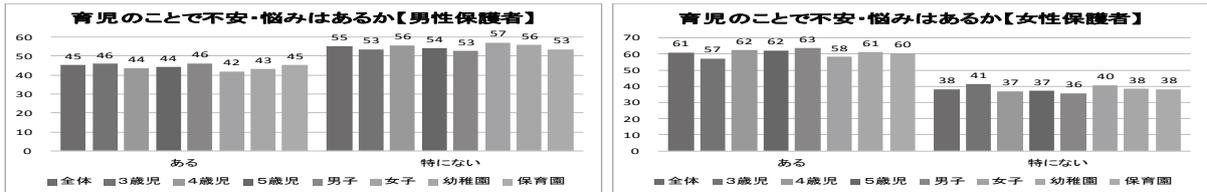
### (4) 子どもに関する不安や悩みについて

**育児のことで不安に思ったり悩んだりしていることはありますか**

- 悩みが「ある」という回答は、男性保護者の45%に対して、女性保護者が61%と16ポイント高くなっている。その中で女性保護者が選択した項目は、1番目に「集団生活」・「しつけ」、3番目に「仕事との両立」、4番目に「性格・情緒」であった。男性保護者が選択した項目は、1番目に「集団生活」、2番目に「しつけ」、3番目に「知的発達」・「性格・情緒」・「経済」であった。
- 年齢別に見ると、3歳児の女性保護者は、「仕事との両立」・「しつけ」11%、「生活習慣」・「集団生活」9%と並んでおり、「集団生活」は3位の位置付けである。それに対して5歳児の女性保

護者では、「集団生活」が1位を占めている。これらの結果には、年長児をもつ保護者に、就学直前での集団生活を重視するという意識がうかがえよう。

- 男子女子別では、「知的発達」に関しては男性保護者の結果が女子より男子の方が5ポイント高く、性役割としての女性保護者との期待の違いがこの差に現れていると思われる。
- ◎ 平成17年度、22年度とは、質問形式が異なる（「特になし」を含めて一つの項目のみを選択）ために直接的な比較はできないが、「特になし」以外で最も高い項目が「集団生活」であることは各年度とも共通している。ここでも人間関係にかかわる項目の割合が高くなっている。また、今回調査では、女性保護者の「仕事との両立」の増加が目立ってきていることも社会の情勢を反映していると捉えられる。



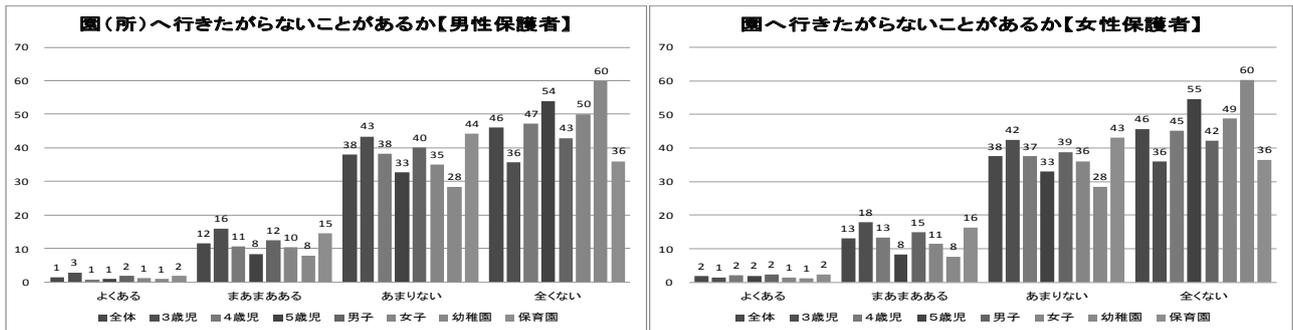
**(5)不登園(所)について**

**子どもが園(所)へ行きたがらないことがありますか**

- 子どもが園(所)へ行きたがらない数の割合は、全体的に男性女性ともにほぼ同じである。
- 「よくある」「まあまあある」と回答した男性保護者は合わせて13%、女性保護者は15%であり、「あまりない」「まったくない」と回答した男性保護者は合わせて84%、女性保護者も84%であった。大半の子どもは園(所)に行きたがらないことはないが、約1.5割の子どもは不登園(所)の可能性があるとわかる。
- 「よくある」「まあまあある」と回答した3歳児の男性保護者は19%、女性保護者は19%で、

男性女性ともに4歳児、5歳児となるにつれ減少している。3歳児は家庭を離れ集団生活することに慣れていなかったり、保護者と分離する時間が長時間である場合寂しがったりと、保護者の助けを多面的に必要とし、集団生活の体験を始めるこの時期、園（所）へ行きたがらない割合が高いと考えられる。

- 保育所（園）・幼稚園での比較では、「よくある」「まあまあある」と回答した保育所（園）の男性保護者は17%で、幼稚園の9%より8ポイント高かった。保育所（園）の女性保護者は18%で、幼稚園の9%より9ポイント高かった。保育所（園）児の方が園（所）へ行きたがらない割合が高いことがわかる。
- 年齢別比較では、低年齢ほど保護者とともできるだけ居たいと思うこともあろう。



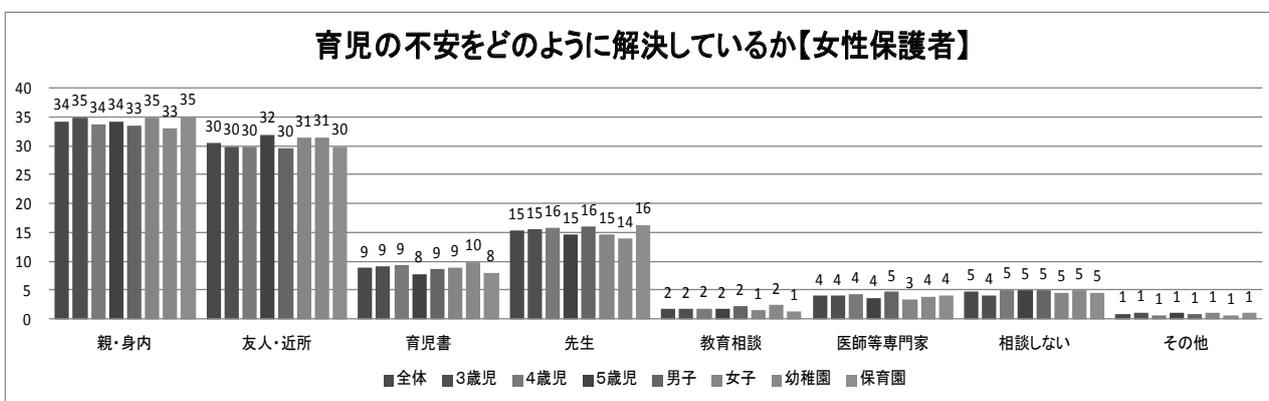
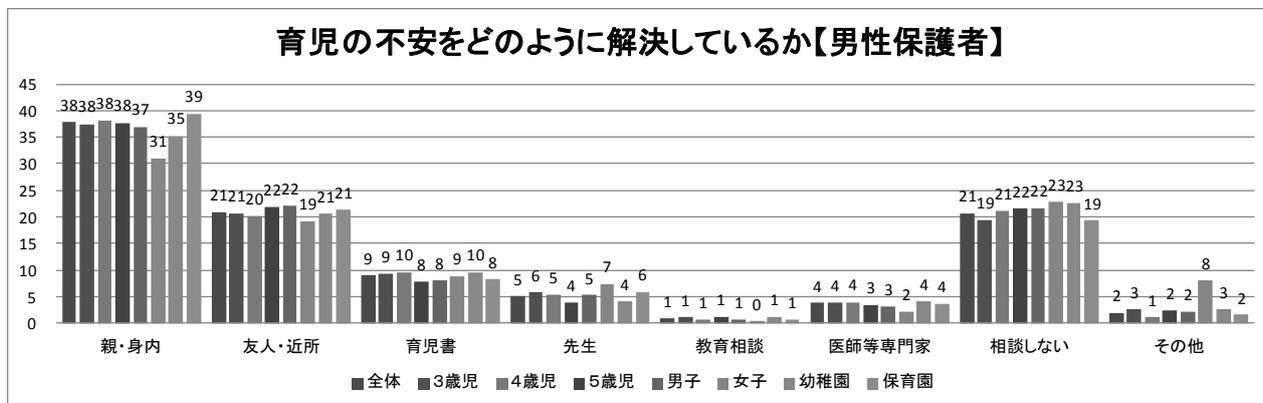
## (6) 悩みの解決法について

### 育児の不安をどのように解決していますか

- 育児で困ったり不安に感じたりしたことを解決する方法として、男性保護者で最も多いのが「親・身内」38%、2番目に「友人・近所」・「相談しない」21%である。
- 女性保護者は一番が同じく「親・身内」の34%であるものの、2番目の「友人・近所」も30%と回答している点が男性保護者とは対照的である。併せて「相談しない」も、男性と比べはるかに少ない。
- このように男性女性ともに身内を一番の相談相手に位置づけているが、女性保護者は身内以外でも子育ての悩みを友だちや近所づきあいの中で、気負いなく話したり、励まされたりという関係をつくりやすいものと思われる。
- 男性女性ともに1、2番の順位は子どもの年齢や男子女子別で見ても変わらない。
- 保育所（園）児の女性保護者は1位の「親・身内」35%で、2位の「友人・近所」より5ポイント上回っているのに対して、幼稚園児の女性保護者では、「親・身内」が33%で、割合的には保育所（園）児の女性保護者とあまり変わらないものの、2位の「友人・近所」との差は2ポイントと少ない。幼稚園に子どもを通わせる保護者たちの中には、保護者同士の交流に気を遣い、負担に感じている人も少なくないようであるが、上述の結果からは通園年数とともに子育ての悩みを共通の話題として交流を深めている保護者たちの存在も考えられ、保護者同士の交流の子育てへの好影響の可能性が期待される。
- ◎ 過年度との比較では、質問形式が異なる（択一方式を複数回答方式へ変更）ために直接的な比較はできないが、男性保護者で平成12年度に最も多かった解決法が「相談しない」であったのに対し、今回の調査では「親・身内」となっていた。近年、男性保護者の育児参加が社会的にも求められる中で、今回は「相談しない」が21%、「親・身内に相談」は38%、友人・近所への相談も21%へと増加している。まだまだ女性保護者に比べると低率であるとはいえ、子育ての悩みが男

性保護者にとってもより現実的なものとなり、相談せざるを得ない状況が生じたことと同時に、男女共同参画の推進の成果ともいえよう。

- ◎ 厳しい子育て状況の中で、誰にも相談できない保護者に対する焦点化された取組が今後は求められるが、その際、教育、保健・医療、福祉などの分野が総合的に関わっていくことが必要であろう。

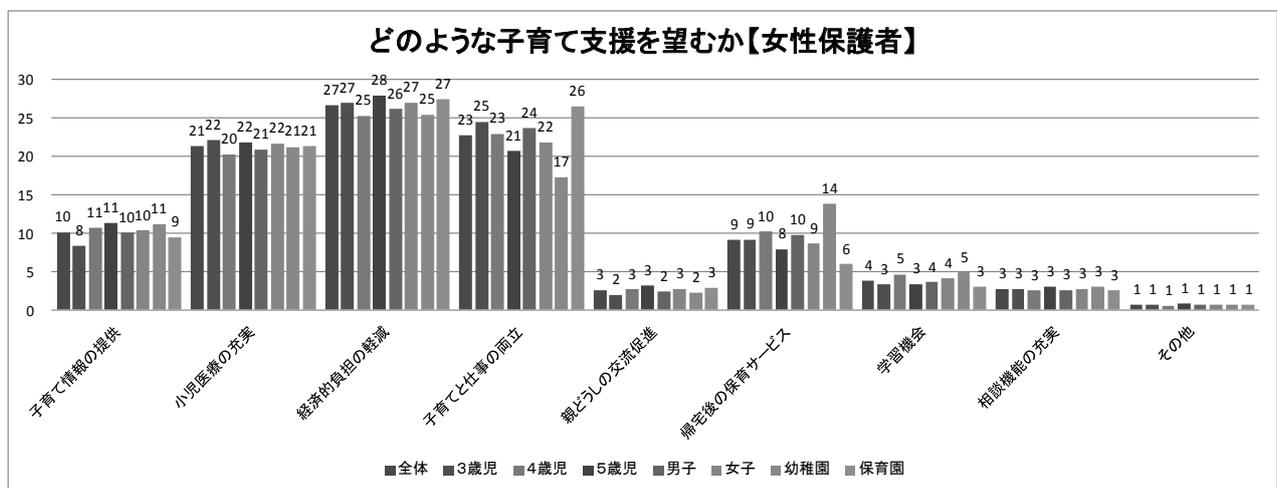
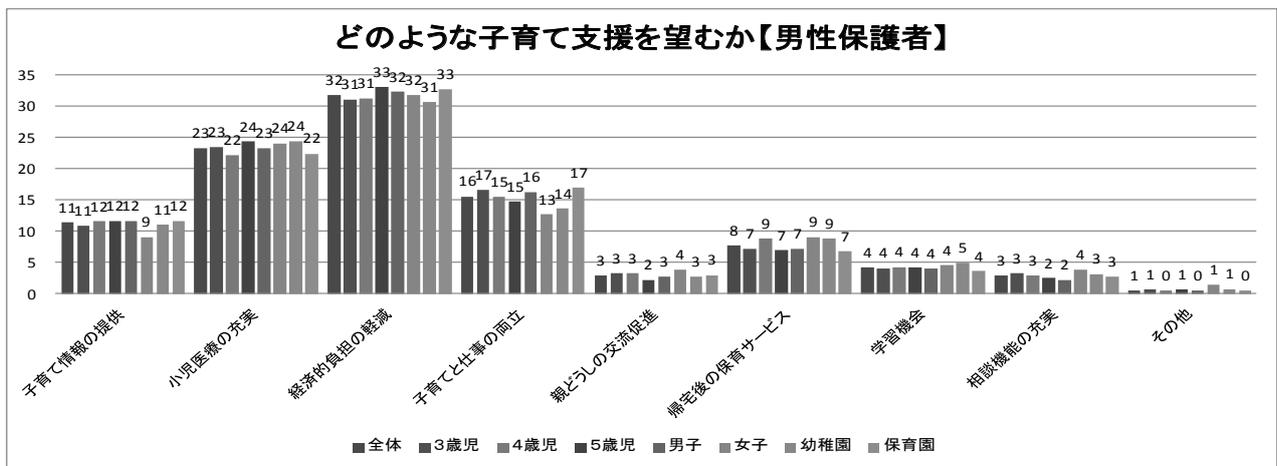


## (7)望んでいる子育て支援について

### 子育て支援として、どのような支援を望まれますか

- 子育て支援として望んでいるものは、男性女性ともに「経済的負担の軽減」が一番で、それを選択した人が全体の約3割を占めている。その後、男性保護者は「小児医療の充実」、「子育てと仕事の両立」、女性保護者は「子育てと仕事の両立」、「小児医療の充実」が続いている。これら上位3つの項目は直接教育にかかわるものではないが、どれも生活に密着した現実的な問題であり、福祉や少子化対策の課題として常に指摘されているところと一致する。

○ 子どもの年齢や男女別、保育所（園）・幼稚園でもその順位はほとんど変わらない。選択した割合をみると、「子育てと仕事の両立」を選択した女性保護者が幼稚園17%に対して、保育所（園）26%と9ポイントの開きがある。また男性保護者についてもその割合は幼稚園14%、保育所（園）17%と後者の方が3ポイント高い。保育所（園）保護者と幼稚園保護者の意識の差は、共働きの保護者が、働きながら育児に直接関わることの大変さを自分自身の問題として実感していることを示しているのであろう。一つの方策として企業、ひいては社会の意識を変え、子育て期の保護者に対する就労への支援や配慮を企業と協力して推し進められることが求められる。また、この差は前回調査に比べ、女性保護者は16ポイント、男性保護者は14ポイント減少している。保育所（園）の保護者の割合については変化が大きく、幼稚園の男性保護者の割合は4ポイント減少、女性保護者の割合は17ポイント減少しており、幼稚園の保護者について、「子育てと仕事の両立」について支援を望んでいる割合の減少が認められる。

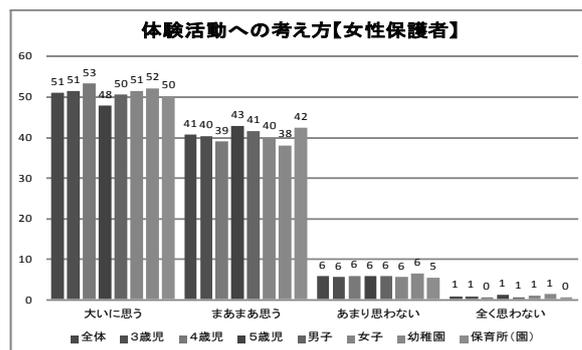
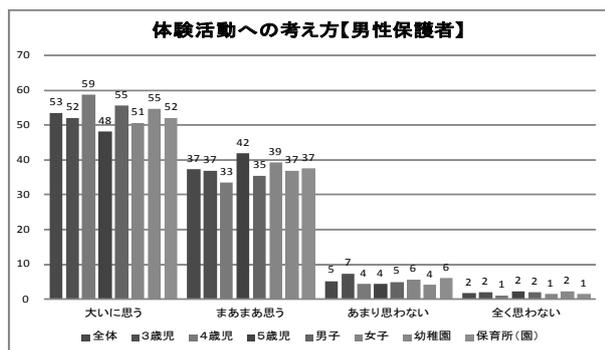


**(8)体験活動への参加について**

**自然に触れる体験、宿泊体験、調理体験などの機会があれば、参加させたいと思いますか**

- 「大いに思う」「まあまあ思う」と回答した男性保護者は合わせて90%、女性保護者は92%であり、男性女性ともに大半の保護者が子どもを体験活動に参加させたいという姿勢をもっていることがわかる。
- 子どもの年齢別や男女、保育所（園）・幼稚園での比較において男性保護者、女性保護者ともに

大きな差がみられない。



#### 4 「保護者の養育意識」に関するまとめ

- 育てる上で重視する事項は前回までの15年間は男女とも保護者は「思いやり」であったが、今回、女性保護者は「基本的生活習慣」となった。その1つの要因としてゆとりのなさなどから生活習慣形成が難しくなったのではと考えられ、保育所(園)・幼稚園等とも連携しながら支援していくことが求められよう。
- 経済状況とも深く関連しているといわれている習い事に行っていない割合は10年前から増加傾向であり、10年前と比べると5ポイント増である。多少無理してでも子どもの教育のためには努力する状況の実現が難しくなっており、子どもの貧困といわれる状況が端的に出たのではと考えられる。
- 子育ての楽しさはここ15年で増加し、「大いにある」と「まあまあある」が約9割である。しかし、しつけの自信は減少気味である。イライラ感が大いにあるは女性保護者では平成12年14%から15年後の平成27年度には8%と6ポイント低下している。近年、各種のデータで示されている虐待件数の増加は憂慮されるべきであるが、全体として福岡県の保護者への子育て支援はイライラ感の減少としては1つの成果が出ているとも受け取れる。家庭教育力に裏付けられたしつけの自信が増大する取組がさらに必要であろう。学校教育における家庭科等の授業で幼児期家庭教育の理論的・実践的力量形成をより一層図るとともに、小中高校の時期に乳幼児と接する機会を設けたり、小児科医や産婦人科医などと協働し、家庭教育についても学びあう機会を設けたりすることがより一層求められよう。
- 子どもが保育所(園)や幼稚園に行きたがらない割合は女性保護者全体では15%であるが、中でも保育所(園)は幼稚園の9%よりも9ポイント高い18%であった。保幼通じて保育時間の長時間化がいわれる中、保護者との接触時間が短くなり、睡眠時間の短時間化とともに子どもたちは寂しいこともあって行きたがらないことが理由の1つでは考えられる。子育てに関して保護者が望む支援内容では女性保護者において「子育てと仕事の両立」を幼稚園保護者は17%が望むのに対して保育所(園)保護者は26%と相変わらず保育所(園)の子どもの女性保護者の割合が高いが、前回に比べると差は16ポイント減少している。保育時間の長時間化の中、幼稚園においても子育てと仕事の両立での葛藤状況実態がより多くみられるようになったものとも推測され、子どものよりよい成長・発達の視点からのワーク・ライフ・バランスの今後のあり方が問われているといえよう。
- 自然体験等の体験活動に関しては参加させたいと「大いに思う」「まあまあ思う」を合わせると約90%となり、かなり高い。中でも「大いに思う」は男性保護者53%、女性保護者51%と約半数であり、かなりの保護者は意識としては自然体験等を重要とみているといえるが、その強さには違いがみられる。「大いに思う」「まあまあ思う」の差が出ている事項をみると、「大いに思う」

が53%に対して「まあまあ思う」は37%と「大いに思う」の方が16ポイント高くなっており、疑問を大切にするという意識があるのではと思われ、幼児期の自然体験等への保護者の深い理解が求められよう。

## 第5章 変遷と総合分析・提案

平成7年度から5回にわたる20年間の福岡県の幼児の保護者の家庭教育調査結果をもとに、幼児をもつ保護者の家庭教育の変遷を、(1) 養育態度、(2) 保護者と子どもの交流、(3) 養育意識の3点から概観し、総合的に検討したうえで、調査結果に基づく提案を行う。

### 1 20年間の幼児に対する家庭教育の変遷

平成7年度、平成12年度、平成17年度、平成22年度、そして今回の平成27年度の調査結果から、継続して共通に質問項目を設定しているものを中心に福岡県における幼児に対する家庭教育の変遷を概観し考察する。

#### (1) 養育態度

##### ① 基本的生活

##### **メディアから離れての団らんを**

前回調査(平成22年度)から「食事の時にテレビを見ているかどうか」を尋ねたが、見ている割合は前回同様、約7割と高く、ゆっくりと食材を味わい、楽しく会話をしながら食事していません。また、食事は生活リズムだけではなく、親子の在り方にも関係するものではないかと考えられる。つまり、今回、前回の調査結果から断定することは出来ないが、食事の時の親子のコミュニケーション、しつけ、団らんが大切であり、テレビを消して家族が1日に一度は食卓を囲むことが求められよう。確かにテレビによって会話のきっかけが生じることもあろうが、それよりも自然体験等の共通直接体験が求められよう。

朝食頻度を尋ねたが、「毎日食べる」が前回の男性保護者85%、女性保護者86%から今回男性保護者80%、女性保護者82%と前回より摂取率がそれぞれ5ポイント、4ポイント低下した。子どもの貧困の問題とも関わることが考えられるが、毎日食べていない約2割の子どもの生活背景や今後の成長が心配であり、このような家族への啓発・支援や食育をどうしていくかが緊急の課題と考えられ、総合的な対策が求められよう。さらに、意識・理解不足だけではなく食事を作る時間的な余裕が無い場合もあるようで、労働重視にならざるをえないワーク・ライフ・バランスを再考していくことも求められよう。それと同時に、毎日食べていても食事の中身が問われる必要がある。栄養学の視点から朝食の中身の重要性についての啓発をより進めるとともに、簡単に作れる食材や栄養を考えた朝食作りの技能獲得のための支援も求められる。テレビ視聴に加え、ゲーム接触時間の増加が結果として示されているが、幼児期における食べる環境づくりも含めた食育の重要性を社会全体で改めて考えていく必要がある。

##### **早寝から、よりよい生活習慣確立の徹底を**

これまで同様、午後9時前に寝るべき幼児が午後9時前に寝ている割合は、実際には全体の4分の1に満たない結果となっている。中でも今回は前回からさらに6ポイント低下している。早く寝ないと、朝食が食べられないこと、自立起床ができないこと、メディア接触時間が長いことが示されている。よりよい生活習慣として早寝・早起き・朝ご飯が幼児の発達の基礎・基本となる。その実現のためのさらなる啓発の徹底・実践の必要性や工夫が問われる。「テレビ視聴時間」が長い子どもでは朝食摂取率が前回同様に低下する。テレビを「ながら」で見せたり、保護者と共に長時間見せたりすることは控えるべきであり、午後9時には寝かせる習慣づくりが求められる。よりよい成長には、望ましい生活習慣が不可欠である。

問題とみられる午後9時以降に寝る幼児の場合、メディア接触時間が長いという傾向があり、「食

事の時にはテレビを消す」や「見ていないときにはスイッチを切る」といった、生活の中でのテレビとの意識的な関わりを持たせるような、メディアとのよりよい関係づくりのための取り組みも求められよう。特に今回の調査結果からゲームやスマホの接触時間の長期化がみられ、緊急の対応が求められる。

### **自立的生活習慣づくりを**

一日の始まりである子どもの朝の起こし方で「声をかけた」は、ここ20年間では女性保護者は平成7年度53%、平成12年度55%、平成17年度56%、平成22年度55%、平成27年度68%と、ここ5年で13ポイントも増加し、約3分の2となってきた。男性保護者も平成7年度39%、平成12年度35%、平成17年度42%、平成22年度48%、平成27年度52%と増加傾向であり、約半数の男性保護者が子どもに声をかけて起こしている。子どもが起きないときに放っておく男性保護者の割合は、平成7年度20%、平成12年度14%、平成17年度9%、平成22年度6%、平成27年度8%と、全体傾向としては減少している。無関心・放任の男性保護者は傾向としては減少しつつあるといえようが、この8%の男性保護者の家庭に注目していく必要がある。

自立起床に関して保育所（園）と幼稚園では20ポイントも差があり、保護者の就業時間の関係から恐らく保育所（園）のほうが比較的早い時間に起こしているとはいえ、自立的生活習慣づくりについての教職員への啓発や研修が求められる。全体としても自立起床に変化があり、悪化している。幼児期からの着実な自立的生活習慣づくりが必要であり、そのためには子どもの主体性を大切にしながら子どもの自律の育成という方向性を持って育てることが求められる。「目覚まし」による起こし方が少数で止まっているが、やがて子どもが保護者から離れることを考えれば、目覚ましにより自分で起きるといった体験学習も必要であろう。その際、保護者は保護者会、保育所（園）や幼稚園と連携・協働し、取り組むことが重要となろう。

子どもへの洗顔・歯磨きのさせ方は「手伝ってさせた」は、ここ20年間では女性保護者は平成7年度15%、平成12年度20%、平成17年度23%、平成22年度25%、平成27年度38%と着実に増加傾向であり、ここ5年で急増し、約4割が子どもを手伝ってさせているようになってきた。男性保護者も平成7年度13%、平成12年度22%、平成17年度24%、平成22年度32%、平成27年度30%と、全体としては増加傾向である。保護者の忙しさが増加しているということもあろうが、子どもの自立性を育てるためには、子どもにまずさせて、時間をかけて待つことが求められ、見守り、時間と労力をかけられる環境づくりと保護者への意識づけが必要である。

### **スマホも含め、メディア接触への留意に関する強い啓発・教育を**

テレビ視聴時間はここ15年間1～2時間、2～3時間の割合が同じくらいで、それぞれ3.5割程度である。3時間以上の子どもも約2割おり、幼児のテレビ漬けの問題が一部の子どもにみられるといえる。ゲーム接触の割合が増加してきており、5歳児では前回の約5割から約7割となってきた。現在では親も15年前に比べてテレビゲームやインターネットなどと接触する機会が増えている。幼児期からのメディア接触は、今後の青少年期の子どもの生活習慣にも影響を及ぼすことがいわれており、保護者は、この問題性に気づき、具体的にメディア接触をコントロールすると同時に、メディア接触以外の活動である外遊びや親子のコミュニケーション、読み聞かせなどの時間を取る必要があるであろう。子どもとの対話の中で約束するなどして、子どものメディアとの自律的接触が求められよう。また、今回、質問に加えた子どもと過ごす時の携帯型端末の使用が約

8割あるが、今後、ますますの増加が予想される。これについて幼児教育関連での検討・対策が緊要である。

## ② 言葉と手伝いやほめたりしかったり

### あいさつや美しい言葉は、交流の基本

前回までの15年間は子どもへのあいさつのしつけは「言えないときに注意する」は約6割で変化がなかったが今回は約5割に減少した。「言えたときにほめる」はここ20年間で12%から22%と10ポイント高まっている。ほめながらしつける傾向が強まっているのではと思われる。保育所(園)や幼稚園、地域であいさつの重要性が強く言われ、家庭でも浸透してきているというのがここ20年の現状である。地域を含めた日常的なあいさつ励行の環境づくりがより一層求められよう。家庭教育の一環として、まず保護者があいさつをしてみせて、子どもに自然にあいさつを身に付けさせていくことが基本であることを忘れないようにしたい。

「言葉遣い」について「きびしく注意する」と答えた割合は、女性保護者では前回までの15年間で平成7年度20%、平成12年度24%、平成17年度25%、平成22年度32%、と増加傾向であったが、今回、平成27年度27%と減少した。

男性保護者も平成7年12%、平成12年度18%、平成17年度24%、平成22年度26%、と増加傾向であったが、今回平成27年度18%と8ポイント減少した。美しい言葉は基本的な生活習慣として一生大切であり、減少した要因を探る必要があろう。

### すべての幼児にお手伝いの習慣づけを

お手伝いは、子どもが楽しみながら行っても他人のためになることを感じる経験につながるものである。自尊感情の向上の視点からも各地でその大切さが唱えられているが、家庭ではここ20年間増加がみられない。幼児にとって、役割や責任を感じるという経験は、たとえ、お手伝いの習慣づけなど活動の時間がかかるにしても、とても重要である。感謝される体験によって感謝する心や自尊感情も育っていくものであり、時間や労力、そして、多少の不便さはあっても幼児期からお手伝いをさせていきたいものである。お手伝いの必要性を保護者自身が態度で示すことや、子どもの生活習慣の中に組み込んでいくことが重要となってくる。幼児期からのお手伝い実施の重要性についての啓発・支援、そして、子どもがお手伝いに関わるための時間を確保できるようにするなど、お手伝いがしやすい社会的環境づくりが求められよう。

### 男女参画、社会参画での総合的な家庭教育支援を

男女で区別した子育てについては、今回も減少傾向であった。現在、性的少数者への配慮が教育現場で強く求められるなど、男女・性に関する考え方も多様化しており、家庭教育での理解や対応が不可欠である。労働と生活、家事従事の夫婦の在り方など現実として、進展途上にある男女共同参画社会の中で、その葛藤がみられるのではないだろうか。

また、増加してきている共働き、ひとり親や再婚家族等、多様な家族に対するきめ細やかな支援も子どものよりよい成長・発達の視点から求められる。保護者自身が課題を持っている家庭、孤立や崩壊が進んでいる家族に対しては、今後は福祉や健康・医療など総合的な支援を届けていく取り組みも必要である。

情報過多の社会で「何が真実なのか」ということに迷うことが多く、子育てへの自信が必ずしも高まっていない現在こそ、保護者同士の交流や学習機会への参加によって、保護者が情報を交換し、自信や誇りを持ち、協同し、支え合っていくことが求められよう。また、幼児に対して、保育所(園)・

幼稚園だけではなく、社会全体で重層的に子育てを支援する態勢が今こそ緊要である。

保育所（園）・幼稚園や社会の最低限のルールを保護者同士が確認していく一つの手段として、福津市が実施している健診時の「メディアとのよりよい関係づくり・生活習慣づくりの研修」や、春日市等が実施し大半の親が参加する「小学校入学前の説明会での家庭教育研修」は有効である。今後は保育所（園）・幼稚園やPTA・地域との連携を深める中で、さらに家庭教育を充実していくための工夫が必要である。そのためには教育、福祉、医療、法務等のパートナーシップによる協働実践が不可欠である。子どもの貧困を解決するには、家族全体を総合的に支えることが重要である。

## （２）保護者と子どもの交流

### 子どもを認める子育てへの留意を

「しかるよりもほめる」教育は着実に定着してきている。平成7年度の調査報告書では「ほめる」ことの重要性が指摘され、過去の調査結果からも「ほめる」が「よくある」と回答した割合は増加傾向にある。特に男性保護者のほめることが「よくある」は平成7年度の29%から平成27年度は40%に11ポイント増加しており、「ほめる」関わりが増えてきている。「しかる」に関しては、「ほめる」ことの方が推奨されていることもあってか、平成7年度から特には増加していない。子どもの認知と受容では、男性保護者の子育て参加の意識や実態について最近の傾向が示された。しかし、「イクメン」が唱えられ、男性保護者の育児への参画が進展してきている中、悩みも増加・深刻化している様相も示されており、子育ての実践上の在り方に関する学習支援が求められる。

ほめることに加えて、幼児をありのままに認めることも重要であり、育児不安や虐待傾向にある保護者に対しては総合的かつピンポイントの子育て支援も求められよう。

### 親子の直接的関わりの充実を

メディアによる報道では問題のある保護者に関する報道がクローズアップして示されることが多いが、今回調査では全体としては、ほめたり、しかったり、スキンシップをとったりと、子どもに関わろうとしている多くの熱心な保護者の姿がみられた。スキンシップを「よくする」割合は男性保護者で平成7年度35%から平成27年度は53%と18ポイント増加し、女性保護者も平成7年度41%から平成27年度は56%と15ポイント増加している。スキンシップの大切さはぜひふんと理解され、実践されてきているとはいえ、さらにスキンシップ内容・方法等への情報提供も求められよう。

読み聞かせについては、前回調査からの質問項目であるが「よくする」男性保護者7%、女性保護者18%、「時々」は男性保護者23%、女性保護者34%と女性保護者の割合の方が高いが、男性保護者も3割がするようになってきている。読み聞かせの大切さの啓発や読み聞かせ支援のための図書館や子育てサークル・サロンの充実、そして保育所（園）・幼稚園での活動が進展してきた成果であろう。活字文化の充実のためだけではなく、人間関係づくりとしては、最適なコミュニケーションの機会の一つであろう。

### 子どもの疑問や話をじっくり聴こう

「あなたは、子どもが『なに？ どうして？』とたずねてきたり、話しかけたりしてきたとき、話を聞いていますか」という質問で「いつも聞く」割合は男性保護者で平成7年度34%から平成27年度35%の1ポイント増に対して、女性保護者で平成7年度46%から今回平成27年度36%と10ポイント低下している。様々な子育て情報が飛び交う中、子育てが充実しているように

みえるが、特に女性保護者の労働時間等が増加している中、保護者の生活実態との関わりの中で、子どもの主体性を育むような子育てには必ずしもなっていないというのも実態であろう。現実に十分な育児休暇が取れるなど子育てにじっくり関われるハード・ソフト面での社会・労働体制が求められる。子どもとの信頼関係に基づいたコミュニケーションによって保護者が一定の自信と責任をもって子どもと関われるという意識の醸成とともにそれを支える環境づくりが必要である。「なぜ」という疑問や不思議がる気持ちに答えることや傾聴が重要であることはいうまでもないが、子どもの将来にわたって学ぶことへの意識づけや喜びの源となるとも考えられ、忙しい中でもじっくりと聞くことが必要である。

### **(3) 養育意識**

#### **子育ては楽しさが基本**

子育て充実の基本は子育ての楽しさであり、子育て支援の大きな目的の一つが保護者に子育ての楽しさを感じてもらうことであろう。「子育てが楽しい」と「大いに思う」割合は男性保護者が平成12年度30%から平成27年は37%と7ポイント増、女性保護者も平成12年度34%から平成27年度は37%と3ポイント増加している。子育ての楽しさが増加している1つの要因として、社会の子育て支援の体制が進んだこととともに、男性保護者の子育て参加や子育ての力量形成が少しでも進んだことにもよるのではないかと推測される。ただし、若干減少しているとはいえ、逆に「楽しくない」親も1割程度存在する。虐待や育児放棄という極端な形として表れていく問題は、この1割の親から生じる割合が高いのではないかとと思われる。楽しい子育てのための焦点化した協働支援が不可欠であると同時に、少子化対策としても子育ての楽しさをもっとアピールしていくことも必要であろう。

#### **体験交流などで「しつけへの自信」を育てる支援を**

しつけへの自信過剰は子どもにとっては負担・問題となることもあるが、自信をもって子育てを行うことは保護者にとって重要であろう。「しつけへの自信」は「大いにある」と「まあまあある」を合わせた割合が前回同様に男性保護者であり変化が無いのに対して、女性保護者では平成7年度38%だったのに対し、今回は26%と12ポイント減少している。子育てに関する情報過多の中で、直接の子育て交流・学習が充分になされていないことが一つの要因と考えられる。今回から自然体験等参加への意識が質問として加えられた。保護者と子どもが理屈ではなく共通の直接体験を持つことによってコミュニケーションが深まり、しつけへの自信も強まると思われ、保護者と子どもの直接のコミュニケーションを醸成する支援・促進への方策の拡充が求められよう。

#### **体験活動の充実による人間力の向上を**

望まれている子育て支援で最も割合が高いのが前回同様「経済的負担の軽減」、次が「小児医療の充実」であった。生活と健康が子育ての基本にあることが改めて示されている。家庭教育の充実と並行して、子どもの貧困対策や保護者も含めた家族の心身の健康づくり対策が取られることが不可欠なことは明確である。心の豊かさが求められている現代、家庭教育で最も気を配ることが「基本的生活習慣」と「思いやり」という調査結果であるが、「自主性」はその約半数であった。基本的生活習慣を形成することが難しいことと同様に、人間関係の難しさを保護者と子どもが身をもって感じていることの現れとも受け取れ、人間関係づくり体験の少なさ、人との深い交わりのなさが影響しているといえよう。しかし、それらの体験と同時に「自主性」を考えていく必要がある。子育ての孤立感やイライラ感を減少させるということも重要であるが、人間関係を自分からよりよい

ものへとつくり上げる体験や、人間関係における問題を自分で葛藤して解決できるための体験が必要である。そのことこそ、幼児教育における課題であり、保護者と子どもの集団での直接体験の充実により図られるべき事項であろう。

不登園（所）意識を持つ幼児の割合は相変わらず1割を超えている。「育児に関する不安や悩み」においても20年間で明らかに増加し、最も割合が高い項目は「集団生活」である。保護者自身に集団生活体験が少なく、苦手になっているのではということも考えられるが、集団生活を意図的に仕組み、幼児期における葛藤体験や失敗体験を恐れずに少しずつ成功体験を重ねさせることによって、将来的にしなやかでたくましい人間へと成長できるのではないだろうか。メディア接触が拡充している中、保育所（園）・幼稚園だけではなく社会教育において保護者と子どもの自然体験や集団体験の機会を充実させていくことが求められよう。

## 2 総合的分析と提案

### （1）社会変化や一生涯の視点からの幼児期における家庭教育を

#### ① 超高度情報化と孤立への留意

今回の調査から子どもと過ごす時の携帯型端末の使用頻度に関する質問項目を加えた。結果は携帯型端末を使用する保護者は多く、ゲーム接触時間も増大していた。電子映像メディアが複雑・肥大化している商業主義の消費社会の中、家庭における幼児の生活習慣の改善にはメディアとの関わりが大きな要因の1つであることが前回よりもさらに明確となってきた。

日本の子どもは就寝時刻が遅い傾向がある。そして、今回の実態はさらに遅寝の割合が高まっていた。当然、睡眠時間も短くなっていく。調査結果から、遅寝と自立起床は関係しているといえる。遅寝の場合には、保護者は無理して子どもを起こす必要が出てきており、保育所（園）や幼稚園に行きたがらないという悪循環を生じさせているのではと思われる。基本的な生活習慣のリズムの大切さを保護者が本気で理解する必要がある。幼児の段階でも基本的な生活習慣のリズムを子どもが少しずつ自分で整えていくことが大切である。

社会変化が激しい現代だからこそ、一生涯の視点から幼児の自立や自律を促す方向性の確認が求められる。幼児は遊びを中心とした生活の中で、自分自身、楽しみながら生きていくと同時に、家庭や地域社会で役割と責任をもつ社会的存在として、一人の大人や市民になるための資質を身に付けていく方向で生活していくことが必要である。そのために幼児期に求められる家庭教育の基本的な方向性や留意点を押さえていくことが求められる。子どものよりよい成長・発達を基本として、発達段階を考慮しながらの子育て支援が、脳や心の<sup>注1</sup>可塑性が高いといわれている幼児のためには必要である。発達途上にある幼児に対しては、特に、保護者や周りの大人は幼児の言葉に耳を傾け、幼児が自己決定しながら判断していく力を付けていくことが今後は不可欠であろう。そのためには単に他の同年代の幼児と同じに出来ないという視点だけではなく、個々の子どもの特性に応じた生涯を通じての学習保障が求められよう。携帯型端末の使用に見られるような新しい変化の裏側を読み解き、主体的に適応していく力を幼児期から徐々に養っていくことが必要である。

注1…ここでは、変化して新しい能力を身に付けていく力や柔軟に変化することを指す。

#### ② 家庭教育の実践的基本の周知を

インターネットなどによる家庭教育情報が増大している中、家庭教育の自信は逆に減少しているという実態がある。お手伝いを保護者がさせていくことは、お手伝いをすることを子どもに自由に楽しませるだけではなく、生活習慣や言葉遣いへの教育、集団生活になじんでいく一つの方策であ

ると考えられる。

保護者と子どもの交流では、スキンシップの充実は著しく、「ほめる」等、家庭教育での関わり方に関心が向けられ、子育てへの取組がよい方向でなされてきているのではと思われる。今回の調査からも、ほめることの実践の割合は高く、福岡県の教育の大切な目標の一つである自尊感情の向上に寄与していくのではと思われる。しかし、あいさつなどの人間関係に関する基本的な生活習慣を保護者が自然に見せ、しつけとして習慣付けられていくことは増えておらず、今後は人間関係の希薄化や孤立、地域共同体の崩壊に対応した家庭教育支援が不可欠である。確かに家庭教育は私事性の高いものであるが、家庭教育の基本となるいくつかの共通事項の確認が求められてきている。その際、子どもが疑問をもったり、話してきたりしたときにじっくり聞くということが、子どもの知的発達の見点からも重要となろう。子どものよりよい成長・発達、自己決定能力の形成の見点に立った家庭教育が、変化の激しい時代には求められている。

## **(2) パートナーシップと協働の実践を**

### **① 幼児の生活分野全体を考えた協働を**

3時間以上テレビを見ている場合、食事中テレビが「ついていない」場合は6.9%なのに対して、「いつもついている」場合は41.5%と3割以上も高くなる。ゲーム1時間以上テレビを見ている場合、食事中テレビが「ついていない」場合は6.7%なのに対して、「いつもついている」場合は21.2%と1割以上も高くなる。テレビやゲーム接触時間と食事中にテレビを消すこと、朝食を子どもが食べることは関連している。そして、実はこれらのことと保護者が自然体験等に参加させたいと思うかどうかにも関係しており、単にメディアから離すだけではなく、3時間以上テレビを見ている場合、自然体験に「大いに参加させたい」場合は17.6%なのに対して、「全く思わない」場合は25.7%と約8%高くなる。メディア接触時間の自己制御に対しても自然体験等の楽しい体験を重ねることが大切であると思われる。幼児期の教育の課題は生活全体からとらえる必要があり、多岐にわたると同時に、保護者、関係機関や施設等、教育だけでは解決できない問題も多い。自然の家などの社会教育施設の活用促進と同時に自然体験等の意義を深く啓発し、幼児期の自然体験等への保護者の深い理解が求められよう。

保育所（園）児の方が幼稚園児よりも遅寝であるなど、調査結果にみられるように、保育所（園）と幼稚園の保護者の家庭教育には差がある。また、調査結果には表れていないが、施設ごとの結果を見ると、個々の保育所（園）や幼稚園における保育・幼児教育の実態も当然多様であることがうかがわれる。「小1（6歳児）プロブレム」と呼ばれる小学校1年時における学習に集中する力の欠如や心身への負担による学校拒否・集団への不適応問題等は、こういった多様な就学前教育、そしてそれとも関わる多様な価値観に基づいた家庭教育の自由性・多様性にも一因があると考えられる。

保育所（園）と幼稚園共通の家庭教育支援が求められ、保育所（園）へのより一層の教育的働きかけが必要である。行政は、多様な保育・幼児教育状況の中、子どものよりよい心身の発達を保障するため、福祉と教育の連携により、関係する情報の提供・交換や交流の場を設け、保・幼・小のつながりをつけていくなどの取り組みをする必要がある。現在は、多くの地域で保・幼・小の交流や連携の実践が進められつつあり、情報共有も着実に進められているが、まだ、充分とはいえない。そして、全体的な家庭教育内容・方法と背景・要因及び対象別の家庭教育内容・方法を考慮し、保護者が取り入れる情報提供の内容・方法が改めて問われている。教えるという視点ではなく、寄り添って子どもを育てるといったパートナーシップの観点に立って子どもの貧困を含め、厳しい状況にある家庭への焦点化された協働的支援が求められる。

## ② 孤立の解放のための連携・協働を

子ども・子育て支援法が施行され、保育所（園）・幼稚園等の在り方も多様化し、ますます、総合的な体制で子どもの家庭教育支援を行う市町村が増加してきている。行政は、家庭教育に関する情報提供・相談対応においては現場や保護者の顕在的・潜在的なニーズを明確にすると同時に、医療・保健分野も含めて子どもに関係した各分野が連携することが必要である。また、子どもの支援の短期・中期・長期での総合的な充実を図っていくという方向性を明示し、育児不安・虐待の早期発見を図るとともに、孤立した保護者や家庭に対して家庭教育を楽しみながら子育てに自信を持つことができるような訪問指導の充実等、身近に幼児をもつ家庭に直接届く形式で独自の展開を図る必要もあろう。

質問項目でみると、孤独感と読み聞かせは関係しており、読み聞かせの余裕や人との関係の多い保護者が読み聞かせをするということもあろうが、子どもに読み聞かせをすることで、保護者は子育ての孤独感を軽減できるのではと考えられる。今後、より詳細な検討を行い、育児不安や虐待のひとつの要因ともいわれる孤立感の軽減をどう図るかを明示していくことが求められよう。そのためには、例えばブックスタートにおいて保・幼と図書館がより一層の協働を行うことが必要であろう。

子どもの生活全体をとらえ、子どもにとって本当に必要な環境とは何なのか、特に幼児期に必要な体験や学びはどういったもので、どういった方法で拡充するのがよいのか、改めて関係分野が連携して考え、実践し、協働して改善していく時が来ている。就学前相談・指導における進路保障だけでなく、特別支援が必要な子どもについての悩みや意見もあり、まずは、生活、医療・保健、福祉などの子どもに関わる機関が情報を十分に共有する必要がある。

男女共同参画社会へと進展していく中、労働時間の長期化や残業が常態化したりして、子育て中の保護者は、現実的に子どもと接する時間は長くない。そこで、労働時間の短縮や育児のための企業等の支援、そして何よりも社会全体が子育てや家庭教育を社会の重要な責務として、子育ての社会的価値を一層認めていく意識を拡充することが重要である。保育所（園）と幼稚園では実態が少し異なっており、しつけや幼児期の教育・保育など保幼を超えた協働の取り組みが今後は必要であろう。市町村によっては、子ども部などを首長部局に創設し、各分野を統合した子どものための部局で事業を行っている所も出てきているが、やはり子どもを中心とした社会・政策実施体制が不可欠である。子ども・子育て支援法の趣旨を活かし、家庭教育に対してもパートナーシップと協働の視点からの取り組みが必要であろう。

今回、子どもと過ごす時の携帯型端末の使用頻度に関する質問を加えた。調査結果から、携帯型端末に緊密に関わっている保護者の実態が明らかとなった。現代的な課題として、絵本や本などの活字文化に関わるメディアに加え、テレビ、ゲームなどの電子映像メディア、そして、前回までもパソコン・ケータイ他を活用したネットメディアの肥大化が幼児の周りでもみられていたが、今回も更なる進展がみられる。電子映像メディア・ネットメディアに関しては、長時間接触の問題として視覚・聴覚、体力等の身体的影響の発生もいわれるが、それ以上に、長時間接触によって保護者と子どもの交流や外遊び等、子どもとしての経験が奪われていることが危惧されている。今後は、テレビやゲームを利用しない子どもの時間・空間・仲間を取り戻すことが大切である。地域の公園の充実に加え、最近みられる市民団体と行政の協働によりプレイパークや子どもの居場所づくりなど、幼児が外遊びを楽しめる場づくりの試みが進展してきており、そのような場での保護者と子どもの交流や体験活動の充実が求められる。

メディアについての教育は、家庭だけではなく、保育所（園）・幼稚園、地域社会、そしてメディア提供側と協働しながら、よりよい関わり方を親や子どもが学んでいくことができる機会を設け

ることが必要である。特に、今回の調査項目で加えられた自然体験等の充実をメディアの自己制限と組み合わせ、協働の視点からしっかりと図っていくことが必要である。

### **(3) 主体的学習能力の育成を**

#### **① 保護者の主体的関わりを**

保護者自身が気づき、主体的に家庭教育や子育てについて学ぶことが実践力の本格的な獲得の基本である。現在、インターネットの状況をもみても、個人が主体的に情報を得、発信・交流していく実態もみられるようになってきている。もちろん、インターネットの情報には根拠や真偽が明確でない場合もあり、慎重に正しい情報を得るようにと考える必要があるが、メディアを文脈から批判的に読み解いていくメディア・リテラシー教育は我が国では充分ではなく、今後こういったインターネット情報に対する啓発・教育が家庭教育でも重要となろう。

福岡県も子育て情報をインターネットで提供するようになってきているが、子育てに有効に生かされている場合が多々ある。しかし、一部の保護者は社会変化の早さや多様な情報に振り回され、子どもとの本当によい関わり方がわからないまま子育てに対する自信を深めることなく、子どもへの圧迫感を醸し出している状況もみられる。最初から完璧な保護者はいないので、よりよい家庭教育を行うためには、保護者が主体的に子育てを振り返り、積極的に人と関わりながら生涯学習を行うことが不可欠である。雑誌・インターネット等による知識だけではなく、子育てに必要な基本的共通事項を一緒に理解したり、実際に他の家族と交流したり、多様な子育ての現場に出会ったりといった機会によって成長していくのではないだろうか。子育てサークルと学校との協働によって少年期に主体的に乳幼児と接すること等は有効であろう。家庭教育支援の基本は保護者の自己決定的学習力を向上させることである。

#### **② ほめて自立させ楽しむ**

幼児をほめることに留意し、スキンシップをとることによって、子育てを楽しめることが示されている。保護者の主体的な家庭教育を支援していくために、保護者の青少年期に「親」教育を学校で体系的に実施したり、産婦人科と小児科が協力して保護者主体の子育てに関する学習機会を継続的に充実させたりするなど、よりよい保護者となるための教育を段階的・継続的に実施していく必要が出てきているのではないだろうか。確かに男性保護者の家庭教育への意識や参加は着実に増加しつつあるという調査結果であるが、子どもとの関わりが増大するにつれて悩みはむしろ増大し、家庭教育を楽しみ、充実して携わっているとはいえない状況がみられる。保護者が子どもをほめ、スキンシップをとることは、子どもにとって良いだけではなく、保護者にとっても子育てに良い影響を与えると考えられ、改めて関わり方の基本を示していく必要がある。

子どもの自立や自律を促すのが保護者の大切な役割の一つである。保護者は幼児と関わり、相互作用する中で学んでいき、成長・発達していくのである。祖父母や親族の養育機能も変化してきている中、新しい形での家庭教育力の形成が求められてきている。

子育てサークルや子育てサロンは育児不安を減少させることも多いようである。そのような場における自主的な保護者学習会などで学ぶ保護者もある程度存在する。そうした中で、子育てに悩んでいる多くの保護者や、子どもにとって適切とは思えない家庭教育を行っている保護者に対する学びの機会の提供は、子どもの人権保障という視点から緊要な課題であろう。保護者が主体的に学び、省察し、子育てに生きがいを感じ、人間として成長していくという方向を持ってこそ、子どもも生きる力をつけていくことが可能となるのではないだろうか。そのためには、子どものよりよい成長・発達が最重要であるとの共通確認を家庭教育に関わる全ての人々が持つことが重要である。さら

に、保護者に寄り添いながらその主体性を引き出し、家庭教育の支援・促進・指導を行っていく人材の養成や子どものよりよい成長に関わる各分野をつなぐコーディネーターの養成が、今後より一層求められよう。その場合も根本にあるのは子どもの自己決定の力量を種々の体験学習等を通して育成していくという視点が重要となろう。教育的視点を持って、子ども自身の自己決定的学習能力を育成するという方向性を踏まえ、幼児期から主体的な学習環境を着実に醸成することが必要であろう。

## II 參考資料

平成27年度 幼児（3，4，5歳児）をもつ保護者の養育態度・意識の実態に関する調査実施要項

1 調査の趣旨

家庭はすべての教育の出発点であり、基本的な生活習慣・豊かな情操・自立心等を養う上で、重要な役割を担っている。しかし、少子高齢化や人間関係の希薄化等、社会状況の変化に伴い、家庭の教育力の重要性が改めて問われている。

子どもたちの成長に様々な影響を及ぼす家庭の教育力を向上させるために、家庭における教育を支援するしくみをつくることは、社会の緊急かつ重要な課題である。

福岡県では、平成7年度、平成12年度、平成17年度、平成22年度に幼児（3，4，5歳児）をもつ保護者を対象に「養育態度・意識の実態調査」を実施してきた。本年度は、5年ぶり5回目の調査となる。

本調査は、調査結果を分析・比較し、現在の家庭教育の実態や課題を明らかにすることで、今後の家庭教育支援の方策を見出すための基礎資料とするものである。

2 調査の実施者

福岡県立社会教育総合センター

3 調査の対象及び人数

県内8地区の幼児（3，4，5歳児）をもつ男性・女性の保護者 約3，000名

※ 本調査は、平成7・12・17・22年度に続く経年調査であり、基本的に前回調査協力園（所）を対象とする。

【地区別調査協力対象園（所）数】 政令市以外は、教育事務所担当地区

福岡市	4	北九州地区	7	筑豊地区	3
北九州市	5	北筑後地区	3	京築地区	3
福岡地区	7	南筑後地区	2	計34園（所）	

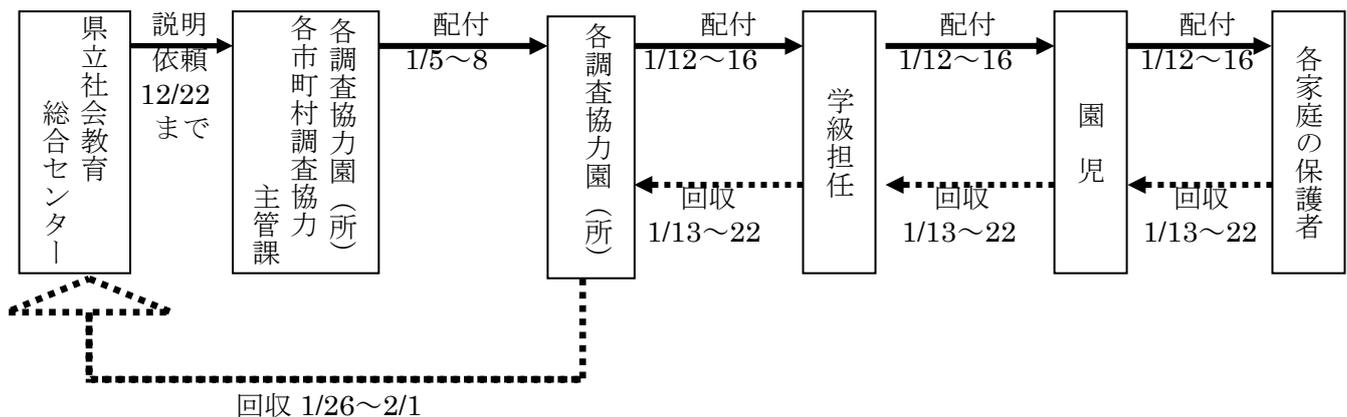
4 調査の実施期間

平成28年1月

5 調査方法

(1) 3，4，5歳児とも男性・女性の保護者別に質問形式の調査票により行う。ただし、男性と女性の保護者の質問構成と内容は同一とする。

(2) 調査票は、県立社会教育総合センターが該当園（所）へ送付し、担任を通して各保護者へ配付・回収し、その後、同センターが同園（所）で受領する。



6 調査票（別紙参照）

なお、回答用紙は男性保護者・女性保護者とも共通の様式とする。

7 調査結果の処理

調査結果を家庭教育支援資料としてまとめ、関係機関・団体等に配布する。



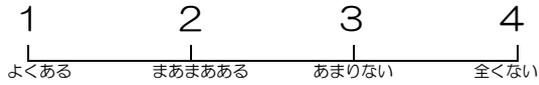
7 あなたのお子さんは、ゲーム（テレビ、パソコン、ネット、携帯型、全て含む）を1日どれくらいしていますか。

例…15分間ゲームをしているお子さんの場合→3.0分未満に該当するので、2を回答する。

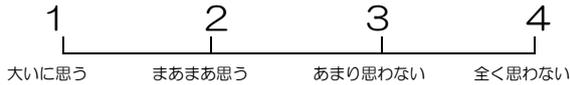
30分間ゲームをしているお子さんの場合→3.0分～1時間未満に該当するので、3を回答する。



8 あなたのお子さんは、幼稚園、保育園（所）に行きたがらないことがありますか。



9 あなたは、自然に触れる体験、宿泊体験、調理体験などの機会があれば、お子さんを参加させたいと思いますか。



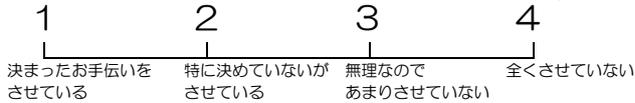
10 あなたは、お子さんに「はい」「ありがとう」「おはよう」などの基本的あいさつをどのようにしつけていますか。



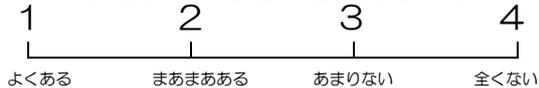
11 あなたは、お子さんの言葉の乱れや流行語の使用をきちんと注意していますか。



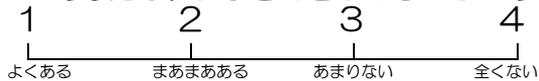
12 あなたは、お子さんにどのようにお手伝いをさせていますか。



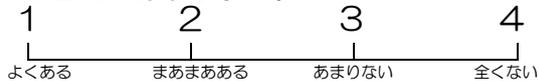
13 あなたは、お子さんをほめることがありますか。



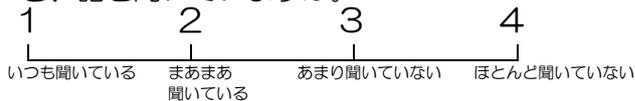
14 あなたは、お子さんをしかることがありますか。



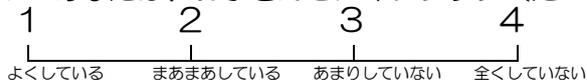
15 あなたは、お子さんを「男の子だから」「女の子だから」といって注意したりしかったりすることがありますか。



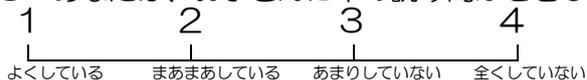
16 あなたは、お子さんが「なに？どうして？」とたずねてきたり、話しかけたりしてきたとき、話を聞いていますか。



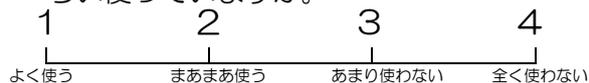
17 あなたは、お子さんとスキンシップ（だっこやおんぶなど）をしていますか。



18 あなたは、お子さんに本の読み聞かせをしていますか。



19 あなたは、お子さんとちょっとした時間を過ごす時に、携帯型端末(スマホなど)をどれくらい使っていますか。

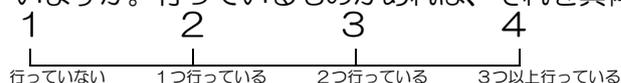


20 あなたがお子さんを育てる上で、今、最も気を配っていることは次のうちどれですか。

(1つのみ回答)

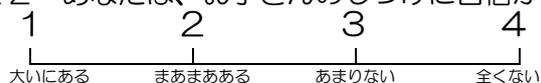
- 1 友だちとの関係
- 2 基本的な生活習慣
- 3 自主性(自分で判断し行動する)
- 4 積極性
- 5 忍耐力(我慢する)
- 6 知的意欲
- 7 思いやり
- 8 特になし
- 9 その他(具体的に御記入ください。)

21 あなたのお子さんは、習い事(スポーツ、ピアノ、英会話、習字、学習塾など)に行っていますか。行っているものがあれば、それを具体的に書いてください。

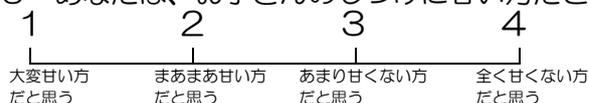


\*具体的な習い事(具体的に御記入ください。)

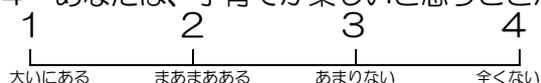
22 あなたは、お子さんのしつけに自信がありますか。



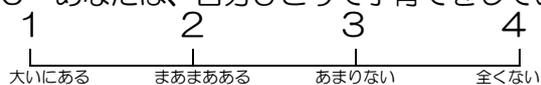
23 あなたは、お子さんのしつけに甘い方だと思いますか。



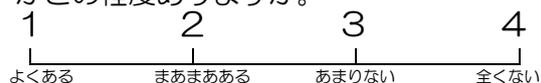
24 あなたは、子育てが楽しいと思うことがありますか。



25 あなたは、自分ひとりで子育てをしていると思うことがありますか。



26 あなたは、子育てにおいてイライラしたりして、お子さんをたたいたりしたいと思うことがどの程度ありますか。



27 現在、あなたは育児のことで不安に思ったり悩んだりしていることはありますか。

- 1 ある 2 特にない

※ 「1 ある」と答えた方にお聞きします。

<p>今、特に不安に思ったり悩んだりしていることは何ですか。 あてはまるものを回答用紙に記入してください。(複数回答可)</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 子どもの身体の発育・発達に関する事</li><li>2 子どもの健康・医療に関する事</li><li>3 話す、書く、読むことなど、子どもの知的発達に関する事</li><li>4 友だちとの遊びや友人関係など、子どもの集団生活に関する事</li><li>5 睡眠、排泄、おねしょ、好き嫌い、服の着方など、子どもの生活習慣に関する事</li><li>6 反抗や甘えなど、親子関係に関する事</li><li>7 子どものしつけに関する事</li><li>8 粗暴・飽きっぽい・内気など、子どもの性格・情緒に関する事</li><li>9 経済的な事</li><li>10 子どもの事故犯罪被害に関する事</li><li>11 仕事と子育ての両立に関する事</li><li>12 育児の悩みの相談先について</li><li>13 地域での安全な遊び場所について</li><li>14 配偶者や家族の育児への協力について</li><li>15 子どもが幼稚園、保育園(所)から帰った後の子どもの世話について</li><li>16 地域のお父さん・お母さんとの交友関係について</li><li>17 子どもを好きになれないなど、子どもへの愛情に関する事</li><li>18 その他(具体的に御記入ください)</li></ol> <p style="text-align: center;">【</p>	】
--	---

28 あなたは、育児で困ったり不安に感じたりしたことを主にどのように解決していますか。

(複数回答可)

- 1 親など身内の育児経験者に相談して
- 2 友人や近所の育児経験者に相談して
- 3 育児書を読んだりテレビを見たりして
- 4 幼稚園や保育園(所)の先生に相談して
- 5 行政や民間の教育相談(電話相談)を利用して
- 6 医師などの専門家に相談して
- 7 相談せずに自分で考えて
- 8 その他(具体的に御記入ください)

【

29 あなたは、子育て支援として、どのような支援を望まれますか。

(複数回答可)

- 1 子育てに関する情報の提供
- 2 小児医療の充実
- 3 経済的負担の軽減
- 4 子育てと仕事の両立支援
- 5 親同士の交流促進
- 6 幼稚園・保育園(所)後の保育サービス
- 7 家庭教育や子育てについて学習する機会
- 8 家庭教育や子育ての相談機能の充実
- 9 その他(具体的に御記入ください)

【

御協力ありがとうございました。

平成27年度 3・4・5歳児データ集

		実数										率(%)							
		全体	3歳児	4歳児	5歳児	男子	女子	幼稚園	保育園	全体	3歳児	4歳児	5歳児	男子	女子	幼稚園	保育園		
1. 朝食	男性保護者	選択肢																	
		毎日食べる	1048	298	404	346	603	454	452	599	80	77	80	81	80	78	82	78	
		ほとんど毎日	193	66	70	57	106	88	73	121	15	17	14	13	14	15	13	16	
		時々食べる	60	21	21	18	34	27	21	40	5	5	4	4	5	5	4	5	
		食べていない	10	1	6	3	5	6	6	4	1	0	1	1	1	1	1	1	
	無回答	5	1	3	2	2	5	2	5	0	0	1	0	0	1	0	1		
	合 計	1318	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100		
	女性保護者	毎日食べる	1389	397	521	472	667	726	554	829	82	78	82	84	82	81	85	80	
		ほとんど毎日	222	76	85	61	108	116	77	145	13	15	13	11	13	13	12	14	
		時々食べる	72	27	24	21	33	40	19	53	4	5	4	4	4	4	3	5	
食べていない		12	4	4	4	4	9	4	8	1	1	1	1	0	1	1	1		
無回答		1	2	1	1	1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0		
合 計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100			
2. 就寝時刻	男性保護者	午後8時前	26	8	11	7	15	11	21	5	2	2	2	2	2	2	4	1	
		午後8時～9時	262	69	109	84	159	106	179	84	20	18	22	20	21	18	32	11	
		午後9時～10時	725	200	274	251	397	332	283	445	55	52	54	59	53	57	51	58	
		午後10時～11時	272	102	100	70	159	116	58	214	21	26	20	16	21	20	10	28	
		午後11時以降	28	7	10	11	18	12	10	19	2	2	2	3	2	2	2	2	
	無回答	3	1	0	3	2	3	3	2	0	0	0	1	0	1	1	0		
	合 計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100		
	女性保護者	午後8時前	36	9	16	11	13	23	25	11	2	2	3	2	2	2	4	1	
		午後8時～9時	333	84	134	115	174	159	224	106	20	17	21	21	21	21	34	10	
		午後9時～10時	951	278	355	319	441	515	321	627	56	55	56	57	54	54	49	60	
午後10時～11時		331	120	113	98	161	171	76	255	20	24	18	18	20	20	12	25		
午後11時以降		41	13	15	13	22	21	8	33	2	3	2	2	3	3	1	3		
無回答	4	2	2	3	2	4	1	5	0	0	0	1	0	0	0	0			
合 計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100			
3. 起床の仕方	男性保護者	声かけ	689	213	256	220	400	297	210	481	52	55	51	52	53	51	38	63	
		目覚まし	22	3	5	14	9	13	8	14	2	1	1	3	1	2	1	2	
		起きた	434	123	184	127	245	190	247	188	33	32	37	30	33	33	45	24	
		放っておいた	109	41	31	37	63	47	61	50	8	11	6	9	8	8	11	7	
		無回答	62	7	28	28	33	33	28	36	5	2	6	7	4	6	5	5	
	合 計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100		
	女性保護者	声かけ	1159	343	427	390	549	618	373	783	68	68	67	56	68	69	57	76	
		目覚まし	33	5	11	17	11	22	8	25	2	1	2	3	1	2	1	2	
		起きた	477	149	186	142	244	233	259	215	28	29	29	40	30	26	40	21	
		放っておいた	24	7	8	9	7	17	13	11	1	1	1	1	1	2	2	1	
無回答		3	2	3	1	2	3	2	3	0	0	16	0	0	0	0	0		
合 計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100			
4. 洗顔、歯磨き	男性保護者	している	93	14	29	50	42	53	51	41	7	4	6	12	6	9	9	5	
		置っている	631	153	255	223	341	296	273	361	48	40	51	52	45	51	49	47	
		手伝う	510	198	193	119	312	202	193	318	39	51	38	28	42	35	35	41	
		任せている	63	20	19	24	41	22	25	40	5	5	4	6	5	4	5	5	
		無回答	19	2	8	10	14	7	12	9	1	1	2	2	2	1	2	1	
	合 計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100		
	女性保護者	している	143	24	47	72	52	91	73	69	8	5	7	13	6	10	11	7	
		置っている	846	193	320	334	385	466	338	504	50	38	50	60	47	52	52	49	
		手伝う	650	274	247	129	344	309	219	430	38	54	39	23	42	35	33	41	
		任せている	44	9	16	19	27	17	22	22	3	2	3	3	3	2	3	2	
無回答		13	6	5	5	5	10	3	12	1	1	1	1	1	1	0	1		
合 計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100			
5. 食事中のテレビ視聴	男性保護者	消している	356	98	144	114	194	165	167	185	27	25	29	27	26	28	30	24	
		ついているが見てない	35	11	19	5	20	15	15	20	3	3	4	1	3	3	3	3	
		時々見ている	499	144	194	161	297	206	218	284	38	37	38	38	40	36	39	37	
		いつも見ている	424	134	146	144	238	191	152	278	32	35	29	34	32	33	27	36	
		無回答	2	0	1	2	1	3	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	
	合 計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100		
	女性保護者	消している	453	125	174	154	223	231	201	249	27	25	27	28	27	26	31	24	
		ついているが見てない	70	27	28	15	28	43	26	44	4	5	4	3	3	5	4	4	
		時々見ている	669	186	264	220	326	347	284	382	39	37	42	39	40	39	43	37	
		いつも見ている	501	166	168	167	234	269	142	359	30	33	26	30	29	30	22	35	
無回答		3	2	1	3	2	3	2	3	0	0	0	1	0	0	0	0		
合 計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100			
6. テレビ視聴時間	男性保護者	1時間以下	164	47	70	47	87	80	64	98	12	12	12	10	12	12	12	12	
		1～2時間	435	136	167	132	238	201	172	263	33	35	33	31	32	35	31	34	
		2～3時間	427	109	176	142	246	182	182	248	32	28	35	33	33	31	33	32	
		3～4時間	210	71	61	78	138	75	94	119	16	18	12	18	18	13	17	15	
		4～5時間	55	18	21	16	25	30	28	27	4	5	4	4	3	5	5	4	
	5時間以上	19	5	6	8	12	7	11	9	1	1	1	2	2	1	2	1		
	無回答	6	1	3	3	4	5	3	5	0	0	1	1	1	1	1	1		
	合 計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100		
	女性保護者	1時間以下	227	79	86	62	100	130	71	153	13	16	14	11	12	15	11	15	
		1～2時間	613	189	232	193	305	312	219	392	36	37	37	35	38	35	33	38	
2～3時間		521	123	208	190	244	277	216	304	31	24	33	34	30	31	33	29		
3～4時間		229	76	76	77	117	111	100	129	14	15	12	14	14	12	15	12		
4～5時間		75	30	24	21	33	44	34	41	4	6	4	4	4	5	5	4		
5時間以上	27	6	7	14	12	15	13	14	2	1	1	3	1	2	2	1			
無回答	4	3	2	2	2	4	2	4	0	1	0	0	0	0	0	0			
合 計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100			
7. テレビゲーム時間	男性保護者	全くしない	460	161	191	108	250	215	200	258	35	42	38	25	33	37	36	34	
		30分以下	364	100	132	132	181	187	138	227	28	26	26	31	24	32	25	30	
		30分～1時間	237	65	87	85	153	87	99	141	18	17	17	20	20	15	18	18	
		1～2時間	148	3															

平成27年度 3・4・5歳児データ集

9. 体験活動	選択肢	実数								率(%)								
		全体	3歳児	4歳児	5歳児	男子	女子	幼稚園	保育園	全体	3歳児	4歳児	5歳児	男子	女子	幼稚園	保育園	
9. 体験活動	男性保護者	大いに思う	700	201	295	204	415	293	302	398	53	52	59	48	55	51	55	52
		まあまあ思う	488	142	168	178	264	227	203	288	37	37	33	42	35	39	37	37
		あまり思わない	67	28	21	18	36	32	22	46	5	7	4	4	5	6	4	6
		全く思わない	21	7	5	9	13	8	11	10	2	2	1	2	2	1	2	1
		無回答	40	9	15	17	22	20	16	27	3	2	3	4	3	3	3	4
	合計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	大いに思う	864	260	338	267	410	459	341	520	51	51	53	48	50	51	52	50
		まあまあ思う	690	204	247	239	337	356	249	438	41	40	39	43	41	40	38	42
		あまり思わない	97	28	37	32	47	50	42	55	6	6	6	6	6	6	6	5
		全く思わない	14	4	3	7	5	9	9	5	1	1	0	1	1	1	1	0
無回答		30	10	10	13	13	19	14	18	2	2	2	2	2	2	2	2	
合計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100		
10. 基本的挨拶	男性保護者	注意する	700	197	254	249	405	303	287	417	53	51	50	58	54	52	52	54
		ほめる	295	104	122	69	168	130	118	175	22	27	24	16	22	22	21	23
		顔から言う	203	57	81	65	113	91	98	104	15	15	16	15	15	16	18	14
		してない	75	19	32	24	43	32	36	42	6	5	6	6	6	6	6	5
		無回答	43	10	15	19	21	24	15	31	3	3	3	4	3	4	3	4
	合計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	注意する	866	237	316	313	424	444	320	543	51	47	50	56	52	50	49	52
		ほめる	468	168	178	123	227	245	176	290	28	33	28	22	28	27	27	28
		顔から言う	286	80	116	90	126	162	127	158	17	16	18	16	15	18	19	15
		してない	33	7	11	15	18	15	12	21	2	1	2	3	2	2	2	2
無回答		43	14	14	18	18	27	20	25	3	3	2	3	2	3	3	2	
合計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100		
11. 言葉・流行語	男性保護者	厳しく注意	237	55	91	91	141	101	107	128	18	14	18	21	19	17	19	17
		一応注意	711	224	260	227	412	305	294	419	54	58	52	53	55	53	53	54
		あまりしない	294	87	123	84	161	134	123	175	22	22	24	20	21	23	22	23
		全くしない	35	14	14	7	17	18	16	19	3	4	3	2	2	3	3	2
		無回答	39	7	16	17	19	22	14	28	3	2	3	4	3	4	3	4
	合計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	厳しく注意	457	130	177	150	242	216	192	264	27	26	28	27	30	24	29	25
		一応注意	1030	303	390	338	470	567	391	634	61	60	61	60	58	63	60	61
		あまりしない	151	52	48	51	74	77	51	100	9	10	8	9	9	9	8	10
		全くしない	22	10	7	5	11	11	5	17	1	2	1	1	1	1	1	2
無回答		35	10	13	15	16	21	16	21	2	2	2	3	2	2	2	2	
合計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100		
12. お手伝い	男性保護者	決めている	88	17	27	44	50	39	48	39	7	4	5	10	7	7	9	5
		させている	989	300	387	302	548	447	422	572	75	78	77	71	73	77	76	74
		無理	137	51	53	33	94	45	46	91	10	13	11	8	13	8	8	12
		全くさせない	55	12	20	23	34	22	19	36	4	3	4	5	5	4	3	5
		無回答	47	7	17	24	24	27	19	31	4	2	3	6	3	5	3	4
	合計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	決めている	156	34	53	69	89	67	83	72	9	7	8	12	11	8	13	7
		させている	1328	391	502	436	611	725	502	821	78	77	79	78	75	81	77	79
		無理	152	59	61	32	81	70	40	112	9	12	10	6	10	8	6	11
		全くさせない	24	9	7	8	16	9	13	11	1	2	1	1	2	1	2	1
無回答		35	13	12	13	16	21	16	21	2	3	2	2	2	2	2	2	
合計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100		
13. ほめる	男性保護者	よくある	524	181	187	156	282	246	231	291	40	47	37	37	38	42	42	38
		まあまあある	661	175	274	212	394	274	277	390	50	45	54	50	53	47	50	51
		あまりない	91	22	30	39	55	37	32	59	7	6	6	9	7	6	6	8
		全くない	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		無回答	39	9	13	18	19	22	13	29	3	2	3	4	3	4	2	4
	合計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	よくある	761	264	275	222	387	379	300	459	45	52	43	40	48	42	46	44
		まあまあある	853	223	327	304	393	463	324	525	50	44	51	54	48	52	49	51
		あまりない	51	8	23	20	20	31	17	34	3	2	4	4	2	3	3	3
		全くない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答		31	11	10	13	13	20	14	19	2	2	2	2	2	2	2	2	
合計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100		
14. 叱る	男性保護者	よくある	487	152	180	155	288	207	196	293	37	39	36	36	38	36	35	38
		まあまあある	617	171	244	202	367	253	263	356	47	44	48	47	49	44	47	46
		あまりない	165	52	62	51	73	92	75	90	13	13	12	12	10	16	14	12
		全くない	11	4	5	2	3	9	7	4	1	1	1	0	0	2	1	1
		無回答	36	8	13	16	19	19	13	26	3	2	3	4	3	3	2	3
	合計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	よくある	1029	306	387	336	528	508	397	630	61	60	61	60	65	57	61	61
		まあまあある	574	169	215	191	251	324	219	351	34	33	34	34	31	36	33	34
		あまりない	60	19	23	18	19	41	25	35	4	4	4	3	2	5	4	3
		全くない	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答		32	11	10	14	14	20	14	20	2	2	2	3	2	2	2	2	
合計	1696	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100	100		
15. 性区別	男性保護者	よくある	73	20	26	27	51	24	30	43	6	5	5	6	7	4	5	6
		まあまあある	329	86	130	113	200	132	143	187	25	22	26	27	27	23	26	24
		あまりない	559	170	218	171	286	277	226	336	42	44	43	40	38	48	41	44
		全くない	319	104	117	98	195	127	142	177	24	27	23	23	26	22	26	23
		無回答	36	7	13	17	18	20	13	26	3	2	3	4	2	3	2	3
	合計	1316	387	504	426	750	580	554	769	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	よくある	50	19	17	14	25	26	24	26	3	4	3	3	3	3	4	3
		まあまあある	484	140	181	163	244	240	190	292	29	28	29	29	30	27	29	28
		あまりない	762	224	282	257	363	403	291	467	45	44	44	46	45	45	44	45
		全くない	370	113	146	111	168	205	137	233	22	22	23					

平成27年度 3・4・5歳児データ集

	選択肢	実数								率(%)									
		全体	3歳児	4歳児	5歳児	男子	女子	幼稚園	保育園	全体	3歳児	4歳児	5歳児	男子	女子	幼稚園	保育園		
17. スキンシップ	男性保護者	よくする	698	238	261	199	392	312	301	396	53	61	52	47	52	54	54	51	
		まあまあしている	484	122	198	164	284	204	202	285	37	32	39	38	38	35	36	37	
		あまりしていない	96	20	31	45	55	43	35	62	7	5	6	11	7	7	6	8	
		全くしていない	3	0	1	2	1	2	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	
		無回答	35	7	13	16	18	19	13	25	3	2	3	4	2	3	2	3	
		合計	1316	387	504	426	750	580	554	789	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	よくする	944	317	345	282	476	474	373	567	56	63	54	50	59	53	57	55	
		まあまあしている	597	159	230	209	270	328	218	378	35	31	36	37	33	37	33	36	
		あまりしていない	120	19	48	53	53	68	50	69	7	4	8	9	7	8	8	7	
		全くしていない	6	1	3	2	2	4	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
		無回答	29	10	9	13	12	19	13	18	2	2	1	2	1	2	2	2	
		合計	1898	506	635	559	813	893	855	1037	100	100	100	100	100	100	100	100	
18. 読み聞かせ	男性保護者	よくする	89	37	34	18	52	38	46	42	7	10	7	4	7	7	8	5	
		時々している	301	106	119	76	152	152	128	171	23	27	24	18	20	26	23	22	
		あまりしていない	562	161	215	186	321	244	230	337	43	42	43	44	43	42	42	44	
		全くしていない	328	76	123	129	206	127	137	193	25	20	24	30	27	22	25	25	
		無回答	36	7	13	17	19	19	13	26	3	2	3	4	3	3	2	3	
		合計	1316	387	504	426	750	580	554	789	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	よくする	305	102	118	85	147	160	160	144	18	20	19	15	18	18	24	14	
		時々している	579	184	221	174	262	321	235	340	34	36	35	31	32	36	36	33	
		あまりしていない	658	182	244	233	330	330	218	439	39	36	38	42	41	37	33	42	
		全くしていない	125	28	43	54	62	63	29	96	7	6	7	10	8	7	4	9	
		無回答	29	10	9	13	12	19	13	18	2	2	1	2	1	2	2	2	
		合計	1898	506	635	559	813	893	855	1037	100	100	100	100	100	100	100	100	
19. 携帯型端末使用頻度	男性保護者	よく使う	130	30	49	51	72	58	53	77	10	8	10	12	10	10	10	10	
		まあまあ使う	472	161	172	139	274	201	186	290	36	42	34	33	37	35	34	38	
		あまり使わない	447	127	177	143	248	205	192	253	34	33	35	34	33	35	35	33	
		全く使わない	229	62	90	77	135	97	110	121	17	16	18	18	18	17	20	16	
		無回答	37	7	15	16	20	19	13	27	3	2	3	4	3	3	2	4	
		合計	1316	387	504	426	750	580	554	789	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	よく使う	73	16	37	20	32	41	34	39	4	3	6	4	4	5	5	4	
		まあまあ使う	503	145	190	168	243	262	168	334	30	29	30	30	30	29	26	32	
		あまり使わない	781	249	272	261	372	412	300	479	46	49	43	47	46	46	46	46	
		全く使わない	303	83	125	95	150	155	138	162	18	16	20	17	18	17	21	16	
		無回答	36	13	11	15	16	23	15	23	2	3	2	3	2	3	2	2	
		合計	1898	506	635	559	813	893	855	1037	100	100	100	100	100	100	100	100	
20. 子育ての重点	男性保護者	友だちとの関係	103	25	40	38	64	40	62	8	6	8	9	9	7	7	8		
		基本的な生活習慣	314	85	125	104	178	141	137	178	24	22	25	24	24	24	25	23	
		自主性	208	60	74	74	108	102	88	123	16	16	15	17	14	18	16	16	
		積極性	44	17	17	10	31	13	20	24	3	4	3	2	4	2	4	3	
		忍耐力	116	32	50	34	80	37	43	73	9	8	10	8	11	6	8	9	
		知的意欲	39	13	11	15	22	17	21	18	3	3	2	4	3	3	4	2	
	女性保護者	思いやり	340	117	130	93	184	157	141	200	26	30	26	22	25	27	25	26	
		特になし	47	15	17	15	30	18	18	29	4	4	3	4	4	3	3	4	
		その他	17	4	2	11	11	6	10	7	1	1	0	3	1	1	2	1	
		無回答	88	19	38	32	42	49	36	55	7	5	8	8	6	8	6	7	
		合計	1316	387	504	426	750	580	554	789	100	100	100	100	100	100	100	100	
		友だちとの関係	134	30	51	53	67	68	48	86	8	6	8	9	8	8	7	8	
女性保護者	基本的な生活習慣	506	159	190	157	254	255	184	317	30	31	30	28	31	29	28	31		
	自主性	251	62	93	97	113	140	123	128	15	12	15	17	14	16	19	12		
	積極性	32	9	8	15	10	22	13	19	2	2	1	3	1	2	2	2		
	忍耐力	101	37	33	31	54	48	31	70	6	7	5	6	7	5	5	7		
	知的意欲	24	7	14	3	11	13	10	13	1	1	2	1	1	1	2	1		
	思いやり	470	152	179	139	214	256	181	289	28	30	28	25	26	29	28	28		
女性保護者	特になし	31	10	12	9	15	16	6	25	2	2	2	2	2	2	1	2		
	その他	22	8	8	6	13	9	10	12	1	2	1	1	2	1	2	1		
	無回答	125	32	47	49	62	66	49	78	7	6	7	9	8	7	7	8		
	合計	1898	506	635	559	813	893	855	1037	100	100	100	100	100	100	100	100		
	21. 習い事	男性保護者	行っていない	765	279	289	197	441	332	277	490	58	72	57	46	59	57	50	64
			1つ	330	70	131	129	186	147	156	179	25	18	26	30	25	25	28	23
2つ			131	26	52	53	76	56	69	59	10	7	10	12	10	10	12	8	
3つ以上			50	5	15	30	26	24	37	13	4	1	3	7	3	4	7	2	
無回答			40	7	17	17	21	21	15	28	3	2	3	4	3	4	3	4	
合計			1316	387	504	426	750	580	554	789	100	100	100	100	100	100	100	100	
女性保護者		行っていない	996	363	374	259	490	508	337	656	59	72	59	46	60	57	51	63	
		1つ	417	91	157	170	196	255	171	247	25	18	25	30	24	25	26	24	
		2つ	179	30	72	77	87	94	92	84	11	6	11	14	11	11	14	8	
		3つ以上	69	10	21	38	25	44	41	27	4	2	3	7	3	5	6	3	
		無回答	34	12	11	14	15	21	14	22	2	2	2	3	2	2	2	2	
		合計	1898	506	635	559	813	893	855	1037	100	100	100	100	100	100	100	100	
22. しつけの自信	男性保護者	大いにある	42	10	18	14	24	19	21	20	3	3	4	3	3	3	4	3	
		まあまあある	448	149	154	145	258	195	187	263	34	39	31	34	34	34	34	34	
		あまりない	707	193	289	225	395	318	295	415	54	50	57	53	53	55	53	54	
		全くない	81	27	28	26	52	29	37	44	6	7	6	6	7	5	7	6	
		無回答	38	8	15	16	21	19	14	27	3	2	3	4	3	3	3	4	
		合計	1316	387	504	426	750	580	554	789	100	100	100	100	100	100	100	100	
	女性保護者	大いにある	18	1	9	8	7	11	10	8	1	0	1	1	1	1	2	1	
		まあまあある	426	129	154	143	212	217	186	237	25	25	24	26	26	24	28	23	
		あまりない	1049	314	388	348	496	558	378	669	62	62	61	62	61	62	58	65	
		全くない	170	50	75	45	83	87	68	101	10	10	12	8	10	10	10	10	
		無回答	33	12	9	15	15	20	13	22	2	2	1	3	2	2	2	2	
		合計	1898	506	635	559	813	893	855	1037	1								

平成27年度 3・4・5歳児データ集

	選択肢	実数										率(%)									
		全体	3歳児	4歳児	5歳児	男子	女子	幼稚園	保育園	全体	3歳児	4歳児	5歳児	男子	女子	幼稚園	保育園				
25. ひとり子育て	男性保護者	大いにある	9	3	2	4	7	3	6	2	1	1	0	1	1	1	0				
		まあまあある	28	9	14	5	20	8	12	16	2	2	3	1	3	1	2				
		あまりない	303	80	122	101	193	115	119	184	23	21	24	24	26	20	21				
		全くない	939	288	352	299	511	434	404	540	71	74	70	70	68	75	73				
		無回答	37	7	14	17	19	20	13	27	3	2	3	4	3	3	2				
	合計	1316	387	504	426	750	580	554	789	100	100	100	100	100	100	100					
	女性保護者	大いにある	129	37	50	42	67	63	57	71	8	7	8	8	8	7	9				
		まあまあある	407	111	156	141	197	214	193	214	24	22	25	25	24	24	29				
		あまりない	676	186	271	219	322	356	256	416	40	37	43	39	40	40	39				
		全くない	453	162	147	144	213	241	135	317	27	32	23	26	26	27	21				
無回答		31	10	11	13	14	19	14	19	2	2	2	2	2	2	2					
合計	1896	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100	100						
26. 子育てイライラ	男性保護者	大いにある	69	24	23	22	45	24	25	43	5	6	5	5	6	4					
		まあまあある	326	99	128	99	214	115	126	202	25	26	25	23	29	20					
		あまりない	563	165	218	180	308	262	244	319	43	43	43	42	41	45					
		全くない	321	92	121	108	164	159	146	178	24	24	24	25	22	27					
		無回答	37	7	14	17	19	20	13	27	3	2	3	4	3	3					
	合計	1316	387	504	426	750	580	554	789	100	100	100	100	100	100						
	女性保護者	大いにある	128	31	56	41	65	63	59	69	8	6	9	7	8	7					
		まあまあある	658	203	254	202	322	340	252	404	39	40	40	36	40	38					
		あまりない	707	204	252	251	339	371	268	435	42	40	40	45	42	41					
		全くない	172	57	64	51	74	99	63	109	10	11	10	9	9	11					
無回答		31	11	9	14	13	20	13	20	2	2	1	3	2	2						
合計	1896	506	635	559	813	893	655	1037	100	100	100	100	100	100							
27. 子どもの不安・悩み	男性保護者	ある	585	178	219	198	345	243	239	348	45	46	44	44	46	42					
		特になし	716	207	279	230	394	331	309	410	55	53	56	54	53	57					
		無回答	12	2	4	7	8	6	4	10	1	1	1	2	7	1					
		身体・発達の健康	105	32	38	35	75	30	42	65	6	6	7	7	7	5					
		知的発達	125	40	48	37	70	55	55	72	7	7	8	7	7	8					
		集団生活	151	40	59	52	112	39	50	100	9	7	10	10	11	6					
		生活習慣	236	71	80	85	138	98	88	147	14	13	14	16	13	15					
		親子関係	116	48	38	30	62	54	41	76	7	9	7	6	6	8					
		しつけ	90	34	28	28	55	35	33	57	5	6	5	5	5	5					
		性格・情緒	170	57	82	51	108	63	52	119	10	10	11	10	11	10					
		経済	147	39	63	45	100	47	50	97	9	7	11	8	10	7					
		事故・犯罪被害	146	54	47	45	82	66	54	93	9	10	8	8	8	10					
		仕事との両立	114	34	40	40	55	59	45	70	7	6	7	8	5	9					
		相談先	90	26	29	35	55	37	32	58	5	5	5	7	5	6					
		遊び場所	6	3	2	1	4	2	4	2	0	1	0	0	0	0					
		育児への協力	95	38	29	28	54	41	41	54	6	7	5	5	5	6					
		帰宅後の世話	19	10	6	3	11	8	12	7	1	2	1	1	1	1					
		交友関係	27	15	5	7	18	9	7	21	2	3	1	1	2	1					
		子供への愛情	2	1	0	0	3	0	1	2	2	2	1	2	2	1					
		その他	3	3	0	0	3	0	1	2	0	1	0	0	0	0					
	合計	6	4	0	2	4	2	3	3	0	1	0	0	0	0						
	合計	1673	558	582	533	1024	654	618	1062	100	100	100	100	100	100						
	女性保護者	ある	1031	288	396	347	515	519	400	626	61	57	62	62	63	58					
		特になし	647	208	233	207	290	361	251	395	38	41	37	37	36	40					
		無回答	16	9	5	5	7	12	2	16	1	2	1	1	1						
		身体・発達の健康	175	41	71	63	120	57	68	107	5	4	6	6	7	4					
		知的発達	154	47	54	53	72	83	69	85	5	5	5	5	4	5					
		集団生活	211	57	81	73	124	87	78	133	7	6	7	7	8	6					
		生活習慣	349	86	126	137	168	183	139	206	11	9	11	13	10	12					
		親子関係	249	87	94	68	129	123	94	155	8	9	8	7	8	8					
		しつけ	231	70	95	66	109	123	93	137	7	7	8	6	7	8					
		性格・情緒	340	102	137	101	163	177	126	212	11	11	11	10	10	11					
		経済	291	77	105	109	161	131	107	184	9	8	9	10	10	8					
		事故・犯罪被害	242	77	86	79	125	118	78	164	8	8	7	8	8	7					
		仕事との両立	191	61	61	69	88	103	72	119	6	6	5	7	5	7					
		相談先	333	106	126	101	169	166	75	254	10	11	11	10	10	11					
		遊び場所	27	11	9	7	15	12	14	13	1	1	1	1	1	1					
		育児への協力	130	42	45	43	70	61	49	81	4	4	4	4	4	4					
		帰宅後の世話	82	32	28	22	44	38	31	51	3	3	2	2	3	2					
		交友関係	88	31	37	20	35	53	27	60	3	3	3	2	2	3					
子供への愛情		74	24	24	26	33	41	23	51	2	2	2	2	2	3						
その他		10	2	4	4	3	7	6	4	0	0	0	0	0	0						
合計	19	8	10	1	8	11	10	9	1	1	1	0	0	1							
合計	3196	961	1193	1042	1636	1574	1159	2025	100	100	100	100	100	100							
28. 解決方法	男性保護者	親・身内	674	207	250	217	296	227	257	417	38	38	38	38	37	31					
		友人・近所	372	114	132	126	177	140	150	226	21	21	20	22	22	19					
		育児書	159	51	63	45	64	65	70	87	9	9	10	8	8	9					
		先生	89	32	35	22	42	54	29	62	5	6	5	4	5	7					
		教育相談	17	6	4	7	5	3	9	8	1	1	1	1	1	0					
		医師等専門家	67	21	26	20	25	16	30	38	4	4	4	3	3	2					
		相談しない	369	107	138	124	174	166	165	204	21	19	21	22	22	23					
		その他	35	14	7	14	18	59	19	16	2	3	1	2	2	8					
		合計	1782	552	655	575	801	730	729	1058	100	100	100	100	100	100					
		女性保護者	親・身内	1250	391	461	399	591	664	495	758	34	35	34	34	33	35				
友人・近所	1113		334	408	372	522	596	471	639	30	30	30	32	30	31						
育児書	320		102	127	91	151	170	148	170	9	9	9	8	9	10						
先生	558		173	215	170	282	279	207	350	15	15	16	15	16	15						
教育相談	63		19	25	20	37	27	35	29	2	2	2	2	2	1						
医師等専門家	144		44	57	43	82	64	57	87	4	4	4	4	5	3						
相談しない	172		45	69	58	86	87	74	97	5	4	5	5	5	5						
その他	32		12	8	12	14	18	10	21	1	1	1	1	1	1						
合計	3652		1120	1370	1185	1765	1905	1497	2143	100	100	100	100	100	100						
29. 支援内容	男性保護者		子育て情報の提供	291	85	111	95	132	93	120	172	11	11	12	12	12	9				
		小児医療の充実	595	184	213	198	264	247	266	325	23	23	22	24	23	24					
		経済的負担の軽減	814	244	301	269	366	327	334	482	32	31	31	33	32	31					
		子育てと仕事の両立	399	130	149	120	184	130	148	251	16	17	15	15	16	13					
		親どうしの交流促進	74	25	31	18	30	39	30	44	3	3	3	2	3	4					
		帰宅後の保育サービス	197	56	85	56	82	93	96	100	8	7	9	7	7	9					
		学習機会	107	32	41	34	46	46	53	53	4	4	4								

調査協力保育所（園）・幼稚園

教育事務所・ 政令市	保育所（園）・幼稚園名	教育事務所・ 政令市	保育所（園）・幼稚園名
福岡市	福岡市立和白幼稚園 福岡市立雁の巣幼稚園 福岡市大濠聖母幼稚園 福岡市屋形原保育園	北九州市	北九州市立足原幼稚園 北九州市立小倉南幼稚園 北九州市花かご保育園 北九州市広済寺保育園 北九州市大川保育園
福岡 教育事務所	篠栗町立篠栗幼稚園 篠栗町立北勢門幼稚園 粕屋町立仲原保育所 粕屋町立粕屋西保育所 粕屋町大川保育園 粕屋町立粕屋中央保育所 大野城市平野保育園	北九州 教育事務所	鞍手町立剣第一保育所 鞍手町立古月保育所 鞍手町立西川第一保育所 中間市中間幼稚園 中間市中間中央幼稚園 鞍手あゆみ保育園 鞍手のぞみ保育園
北筑後 教育事務所	小郡市立三国幼稚園 久留米市中村保育所 久留米市立大城保育所	南筑後 教育事務所	大川市立木室幼稚園 柳川市六合保育園
筑豊 教育事務所	田川市立幼稚園 田川市紅百合保育園 田川市立西保育所	京築 教育事務所	みやこ町立豊津保育所 みやこ町祓郷保育所 苅田第一幼稚園